

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金貳圓

二類壹石ニ付 金三圓

三類壹石ニ付 金四圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月二十日迄ヲ以テ一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月二十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期日ヲ過クレハ免許セサル

者トス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書

換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 九月二十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額并前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其

造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總

石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ニ變製スル類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時ハ造石

税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納メ

更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査

ヲ受クヘシ

第十三類 酒造絞油味噌醬油

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ  
第十七條 前條檢査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成ス  
ルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除  
ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込メ酒もど其  
他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳ヘ申出其容量ノ檢査ヲ受クヘシ  
但賣買等ハ其時々管廳ヘ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もどヲ販賣スルヲ許サス

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十三條 檢査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒<sup>糖</sup>器<sup>器</sup>械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出開封  
ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法共届  
出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之  
ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許  
稅額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅ニ倍ノ金額ヲ併セ科  
スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第二十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其  
鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第二十一條 造酒石數ノ檢査ヲ受ケスシテ賣捌キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ

相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ没收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石  
税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類もともろりト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額  
ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違犯スル者ハ壹圓ヨリ少ナカラ  
スニ拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

附則

酒造營業者ニアラスシテ自家飲料ノタメ酒類ヲ製造スルモノハ一ケ年壹石各種製造スルトキニ  
ハ其總數ヲ合算スニ  
超ヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

第二千六百五十八 明治十三年九月廿八日布告

第四拾貳號

今般第四拾號布告酒造税則第一章第五條營業出願期限ノ儀ハ本年ニ限り來ル十一月三十日  
迄延期候條此旨布告候事

第二千六百五十九 明治十三年十一月二十四日大藏省達

府 縣

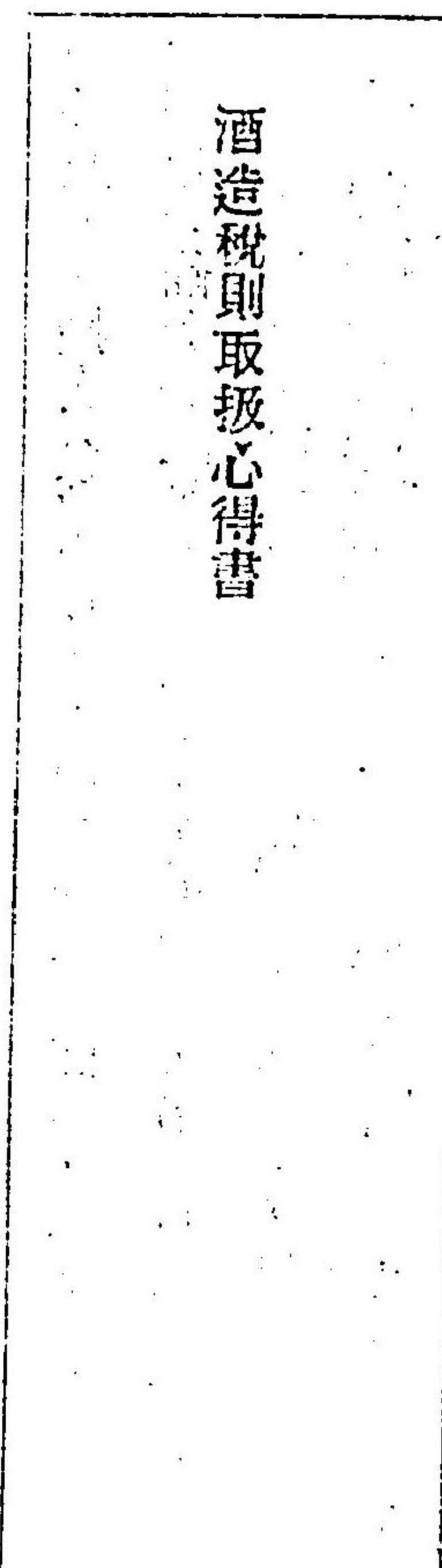
乙第三拾九號

本年九月第四拾號ヲ以テ酒造税則御布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定候條此旨相  
達候事

別紙

表 紙

酒造税則取扱心得書



酒造税則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租税局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項 免許鑑札雛形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

第三項 酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許  
鑑札ヲ授與スヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルキハ最初授與シ

第十二類 酒造絞油味噴鹽油

タル鑑札ヲ差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印(第五項雛形ノ如シ)ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白盡キタルハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項 免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年 一期 細輪廓 字体楷書 印肉朱

酒造 免許之證 寸法 鑿中曲尺寸四分 橫中曲尺四分

第六項 免許鑑札ノ授與ハ新規營業ト引續營業ヲ問ハス年々十月一日執行スルモノトス

第七項 稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交涉スルハ双方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳賣渡讓渡人ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳買受讓受人所在ノ管廳

ヘノ添翰該期免許稅納酒且免許鑑札ハ取置タル旨明記スヘシヲ作り之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換

鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但酒造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交涉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第八項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第九項 廢業并書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取

締無之様消却スヘシ

第十項 稅則第五條每年九月三十日迄トアルハ新規又ハ引續共翌期ノ營業免許ヲ出願セシムルノ期限ト心得ヘシ

第十一項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ト雖モ一期製造見込ノ種目石數等總テ稅則第二十六條ニ依リ届出シムルハ勿論一期製造ノ分ハ其石數翌期十月中ニ届出シムヘシ

第十二項 稅則第二十六條造酒見込ノ種目トアルハ清酒濁酒燒酎白酒味淋ト其種目毎ニ掲記セシムル義ト心得ヘシ

但銘酒ハ直酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒おられ酒南蠻酒等各其酒名ヲ分記セシムヘシ

第十三項 稅則第二十七條酒造ニ屬スル倉庫納屋等ハ其實況詳細繪圖面ニ製シ且諸器械ハ第二號雛形ノ通取調之ヲ差出サシムヘシ

但本文調書中増減及變換等アルキハ其時々更ニ調書ヲ製シ引換ヲ乞ハシムヘシ

第十四項 稅則第二十八條戶外ニ掲出スベキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

但石數ハ最初届出ノ見込高ヲ掲記シ増減アルキハ其時々札紙ヲ貼付シ之ヲ更訂セシムヘシ

第十四年二月一日(但書第一行調書)ハヲノ誤ノ旨ヲ通知ス

寸法 竪中曲尺三尺 横中製酒種類ノ數ニ依リ適宜定ムヘシ

「免許鑑札之番號

第何號
清酒何石造
白酒何石造
何府郡區
何縣國町村
何番地
何
某

第十五項 營業者ノ屬籍住所ト酒造場ト甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ都テ酒造場所在ノ管廳ニ於テ免許鑑札ヲ授與シ造酒檢査及ヒ徵稅方等取計フヘシ

第二款 桶派調查

第十六項 稅則第二十條酒桶瓶類調查方ハ第三號書式ノ如ク豫メ調查簿甲乙二帳ヲ製シ置キ新規輪替等調查ノ都度詳細ニ之ニ記入シ酒造檢査方ノ照據ニ供スヘシ

但甲帳ハ管廳ニ備置キ乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ  
第十七項 營業者ヨリ前項桶類ノ新調等ヲ届出タルキハ其時々主任官出張シテ左ニ掲ケル所ノ丈量法及ヒ算則ニ依リ詳密ニ調查ヲ遂ケ桶ノ側面ヘ左ノ件々ヲ掲載シ管廳ノ烙印ヲ爲スヘシ

番號

口徑 何程

胴徑 何程

底徑 何程

深サ 何程

石數 何程

調査ノ年號月日

調査人官姓名

酒造桶類丈量法

口徑口頭ヨリ一寸 胴徑口底徑ノ中央 底徑底板面ノ箇所 ハ孰レモ内側リニテ縱横⊕圖ノ如ク度リ此縱横形ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前唇等箇所 後其背 孰レモ底ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ此前後ノ尺度ヲ和シ之ヲ二ニテ除キ以テ定ムヘシ  
但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口胴底ノ三徑ヲ各個自乘シ此三個ヲ和シ之レヲ二ニテ除キ以テ實トス之ニ深ヲ乘シ又圓

第十三類 酒造絞油味噌醬油

積率<sup>七八</sup>ヲ乘シ而シテ舛法<sup>六四八</sup>ヲ以テ除キ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ勺以下切捨ツヘシ

第十八項 瓶類容量ハ總テ桶類ニ準シ之ヲ査定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但番號石數等ハ適宜木札ニ書載シ之ヲ正面ニ付シ置カシムヘシ

第十九項 桶瓶類ノ番號ハ倉庫ノ數ト酒類ノ種別トニ拘ハラズ總テ酒造場一箇所毎ニ起號シ桶瓶類ノ總數ニ應シテ其順次ヲ定ムヘシ

第二十項 粕桶水桶米浸シ桶ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサル分ハ丈量ニ及ハスト雖モ番號前項桶瓶類ノ類ヲ逐フヘシヲ記載シ之ニ烙印スヘシ

第二十一項 調査濟ノ桶瓶類賣買讓與又ハ貸借スルモ其旨雙方連署ノ書面ヲ以テ届出サセ其賣買讓與スルモノハ主任官出張ノ上其桶瓶類ノ番號ヲ書換ヘ且調査簿ヲ加除シ其貸借スルモノハ直ニ調査簿ニ記入スヘシ其營業者ニアラサル者ハ賣渡スカ又ハ破解スルモノハ桶側面ヘ記載ノ件々ヲ削除シ調査簿ヲ消却スヘシ

但本文賣買讓與等ノ節若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルモハ第七項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ尤桶瓶類ノ番號書換及調査簿記入等買受讓受人ニ關スル處分ハ乙管廳ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三款 器械封閉

第二十二項 稅則第二十五條器械ノ封緘ハ各府縣廳ニ於テ豫メ一定ノ方法ヲ相立テ搾リ器械ハ酒槽ノ樋口井男柱ノ孔蒸溜器械ハ兜釜等緊要ノ箇所ヘ嚴重封緘ノ上主任官ノ檢印ヲ捺スヘシ

但封緘ノ爲メ繩類ヲ要スルモハ堅牢ナルモノヲ用井封紙ハ管廳ノ印章ヲ捺シ且其封緘ハ年月日ヲ記シタルモノヲ用井弛緩剝脫ノ患ナキ様取計フヘシ

第二十三項 開封ヲ願出ルモハ時日ヲ遷サス主任官出張シ使用又ハ洗滌ノ日數ヲ計查シ至當ト思惟スル時ハ其封印ヲ開放スヘシ而シテ使用等ノ日數滿限ニ至レハ再ヒ出張シテ前項ノ手續ニ據リ之ヲ封緘スヘシ

第二十四項 前項封緘并解披ノ年月日及ヒ使用等ヲ許シタル日數ハ第四號書式ノ如ク詳細ニ記入シ營業者ヲシテ調印セシムヘシ

第四款 造石検査

第二十五項 稅則第十條造石検査ハ收稅額ヲ定ムル基礎ニシテ最モ緊要ノ件ニ付諸事注意ヲ加フヘシ且検査ハ營業者ノ申出ニ依リ速ニ取計ヒ營業ノ差支トナラサル様之ヲ處辨スヘシ

第二十六項 検査季節ニ至レハ各府縣廳ニ於テ營業者ノ多寡及ヒ地形ノ難易等ニ據リ管内

ヲ數部ニ分チ每部検査員出張所ヲ設ケ主任官二名以上ヲ駐在セシメ該検査ニ係ル一切ノ事務ヲ取扱ハシムヘシ

但検査ニ關スル諸般ノ手續ハ豫メ營業者ヘ達シ置クヘシ

第二十七項 造石検査簿ハ第五號書式ノ如ク酒造場毎ニ甲乙二帳ヲ製シ置キもともろみ製酒等ヲ検査シ其時々詳細ニ之ニ記入スヘシ

但甲帳ハ主任官之ヲ携帶シ乙帳ハ營業者ニ下付シ置クヘシ

第二十八項 造石検査ヲ受クヘキ酒類ハ桶瓶等口頭ヨリ一寸ヲ減シ側面記載ノ石數ヲ入置カシムヘシ

第二十九項 造石検査ノ節ハ每桶査定ノ石數ヲ通算シテ總石數ヲ定ムヘシト雖モ其査定ノ石數ニ充タサルモノハ現在ノ入實ニ就テ其石數ヲ調査スヘシ

但本文入實胸徑ヨリ以下ニ在ルモノハ其口徑(現在ノ入實際ヲ指ス)ト深サトヲ度リ之ニ査定ノ底徑ヲ用非算出スヘシ又胸徑ヨリ已上ニ在ルモノハ該方法ニ依リ胸徑ノ已下

已上ヲ區別シ各個ニ石數ヲ算出(胸徑以上ヲ算出スルキハ胸徑ヲ底徑ニ換用ス)シ之ヲ合算スヘシ

第三十項 酒類皆造ノ検査ハ第三期納税ニ差支ヘサル限之ヲ完了スヘシ

第三十一項 検査季節中營業者疾病事故アルキハ其營業熟知ノ代理人ヲ定メ届出シムヘシ

第十四年二月  
一日初項第  
下十ヲ脱シ及  
ルハ酒造米トア  
誤又第三十三  
項狀等ノ下ヲ  
ハテテ誤リ旨  
通達アソ

第三十二項 税則第九條ニ基キ營業者ヲシテ左ニ掲クル所ノ諸帳簿ヲ製シ詳細ニ記入シ置カシメ造石検査ノ際之ヲ参照ニ供セシムヘシ

酒造米買入帳 搗米通帳 仕込帳 杜氏仕込帳 酒藏出帳 酒賣上帳 酒貸帳 酒藏米仕拂帳 杜氏並日雇給料帳 荷物判取帳 金錢判取帳 樽貸帳 積出帳 酒粕糖賣

拂帳 酒造諸器機買扣帳 酒粕目方扣帳

此他酒粕麴麥萌シ及銘酒類ニ加味スヘキ品類買入等帳一切

第三十三項 他家ノ造酒ヲ買受ケ販賣スルキハ其石高及代價等ヲ詳記シタル仕切書又ハ送り狀等ヲ取置カシメ造石検査ノ際之ヲ参照ニ供セシムヘシ

第三十四項 税則第十五條検査濟ノ酒類ヲ變製税則第二條一類ノ酒ヲ二類ニ類ヲ三類ニ製スルノ類スルキハ該條ニ據ルヘ

シト雖モ一酒類中ノ變製酒ヲ清酒ニ味淋ヲニ係ルキハ單ニ其變製シタルモノニ就テ課税ノ石數ヲ査定スヘシ

第三十五項 検査濟ノ酒類並買入酒等ヲ粕漉ニスルキハ其時々前以届出サセ之ヲ検査スヘシ

第三十六項 酒類ノ火入滓引等ハ造石検査ノ後之ヲ爲サシムヘシ

第三十七項 税則第十六條酒類并ニもろみ共非常ノ損害ニ罹リタルキハ營業者ヨリ其實況ヲ詳記シタル書面ヲ以テ届出シムヘシ而シテ右届書ヲ受ケタルキハ時日ヲ遷サス主任官出

第十三類 酒造絞油味噌醬油

張シ實際詳密ニ検査ヲ遂ケ事實相違ナシト認ムルキハ造石検査簿上該石數ヲ删除スヘシ  
第三十八項 前項検査セシ酒類ヲ變製セント欲スルキハ更ニ變製酒ノ種目并石高共詳記シ  
タル書面ヲ差出サセ調査ノ上至當ト思惟スルキハ之ヲ認可シ尙製成ノ上精製ニ検査シ之  
ヲ造石検査簿ニ記入スヘシ

第三十九項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ検査ニ及ハスト雖モ他ノ酒類取締ノ爲メ便  
宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第四十項 稅則附則ニ據リ酒類一ヶ年一石以上ヲ製造スル者ハ其旨願出サセ免許鑑札ヲ下  
付シ免許稅ヲ徵收シ及ヒ造酒検査ノ上造石稅ヲ徵收スヘキハ勿論其一石已下ヲ製造スル  
者ト雖モ其酒類ノ種目并造石共届出サセ實際不取締無之豫取計ヲヘシ

第五款 課稅區別

第四十一項 造石稅納期已前免許鑑札ヲ賣與讓與シ又ハ廢業スル者ノ検査濟酒類ニ係ル造  
石稅ハ其節之ヲ完納セシムヘシ

第四十二項 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類酒もとヲ販賣スル者ハ其旨届出サセ詳密ニ檢  
ヲ除ク査ノ上其石數ニ應シ稅則第二條ノ類別ニ據リ課稅スヘシ

第四十三項 免許鑑札賣買讓與シ又ハ廢業ノ節未製成ノ酒類酒もとヲ營業者ニ賣渡スルハ  
ヲ除ク双方連署ノ書面ヲ以テ届出サセ検査ヲ遂ケ且製成ノ上ハ更ニ之ヲ検査シ該酒類ノ石數ニ

依リ課稅スヘシ其營業者ニアラサル者ニ賣渡スル其酒類ニ係ル造石稅ハ第四十一項ノ手  
續ニ依リ之ヲ完納セシムヘシ

但本文酒類賣買ノ節若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルキハ第七項ニ準シ其手續ヲ爲スヘシ尤  
製成ノ酒類ヲ検査シ及ヒ其石數ニ係ル造石稅徵收方等ハ乙管廳ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四十四項 稅則第十八條葡萄酒及ヒ麥酒ノ類トハ總テ西洋酒摸製ニ係ルモノヲ謂フ實際  
疑似ニ涉ルモノハ其製造方法等ヲ詳記シ大藏省ヘ稟議スヘシ

第六款 申懸期限

第四十五項 新規營業者人員ハ每一期分第六號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ其期十月十五日  
限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第四十六項 一期造酒見込届出ノ種目石數ハ第七號雛形ニ倣ヒ種目石數表ヲ調製シ其期十  
一月十五日限リ差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第四十七項 前項届出ノ後造酒石數ノ増減ハ第八號雛形ニ倣ヒ増減表ヲ調製シ左ノ期限ノ  
通り差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第一次 三月三十一日マテ 届出タル分 四月十五日限

第二次 四月一日ヨリ六月三十日マテ 届出タル分 七月十五日限

第三次 七月一日ヨリ八月三十一日マテ 届出タル分 九月十五日限

第十三類 酒造、絞油、味噌、醬油



第四十八項 造酒検査済石數ハ第九號雛形ニ倣ヒ石高表ヲ調製シ左ノ期限ノ通り差立テ租税局ヘ送付スヘシ

第一期 三月三十一日マテ 検査済ノ分 四月十五日限

第二期 四月一日ヨリ六月三十日マテ 検査済ノ分 七月十五日限

第三期 七月一日ヨリ八月三十一日マテ 検査済ノ分 九月十五日限

第四十九項 免許鑑札受拂ハ每一期分第十號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租税局ヘ送付スヘシ

第五十項 返納鑑札消却ノ分ハ第十一號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限リ差立テ租税局ヘ送付スヘシ

第五十一項 免許税造石税ハ每一期分第十二號雛形ニ倣ヒ税表ヲ調製シ翌期十月三十日限リ差立テ租税局ヘ送付スヘシ

第五十二項 本書第十一項造石税免除酒類ノ種目石數ハ每一期分第十三號雛形ニ倣ヒ種目石數表ヲ調製シ製造見込高ハ其期十一月十五日限リ製成高ハ翌期十月十五日限リ差立テ租税局ヘ送付スヘシ

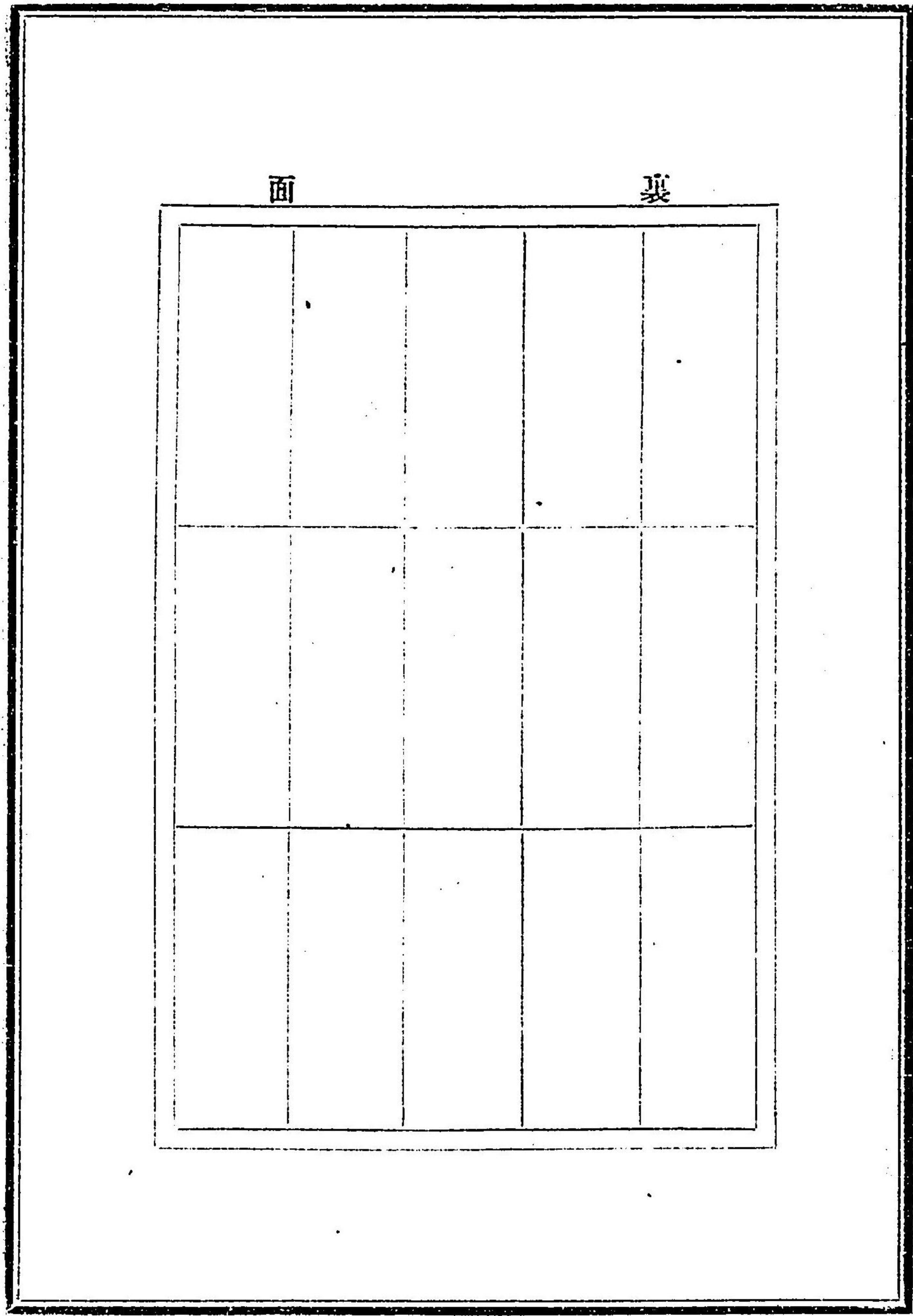
第十四年二月一日第五十二項第四行十月八十一日ノ誤ハ十一月ノ誤ノ首通達アリ

第一號雛形

和税局長ノ割印	
酒造場	何號
國郡區町村番地	酒類製造營業免許鑑札
何府國郡區 何縣國町村番地	何之誰
年月日	免許ノ年月日

地方管廳ノ押切印

第十三類 酒造、絞油、味噌、醬油



表

紙

酒造諸器機調書

何國郡區番地

何

某

第二號雜形

朱也

用紙美濃紙

酒造諸器機調

一酒槽

一層榨

一男柱

一締メ木

一掛ケ袋

一垂リ瓶

一蒸溜器

何 何 何 何 何 何

個 個 本 本 個 個

幾 何 何 何 何 何

組 個 個 本 本 個 個

第十三類 酒造絞油味噌醬油



記入凡例

一新規買受讓受借受等ハ桶瓶掲載ノ番號ニ從ヒ順次之ヲ記入スヘシ  
 但シ借受ノ分ハ區別判明ナラシメンカ爲メ特ニ朱字ヲ用フヘシ  
 一輪換ハ其號欄内中次項へ更ニ記入シ前檢査ノ項へハ斜線ヲ朱記シ之ヲ  
 消却スヘシ

一貸渡ハ其號欄内ニ掛紙ヲ附シ置キ追テ返戻ノ節之ヲ剥去ヘシ  
 一賣渡讓渡破解並ニ借受ノ分返却等ノ節ハ其欄内へ斜線ヲ朱記シ之ヲ消  
 却スヘシ

一粕桶水桶等番號ノミ掲載ノ分モ總テ本簿ニ記入スヘシ

一前件々記載ノ節ハ離形ニ準シ其事故詳細記入スヘシ

一記入ノ上ハ檢査済ノ證トシテ離形中①印ノ箇所へ主任官見認印ヲ捺シ

②印ノ箇所へ營業人ノ實印ヲ捺セシムヘシ

但シ借受貸渡等ハ營業人届出ノ書面ニ就テ記入シ①印ノ箇所へ主任  
 官ノ見認印ヲ捺スヘシ

裏 面

用紙美濃紙

〔括弧〕内及①②ハ總テ朱

第 〔何〕 號	免許鑑札番號		居	所	營業人姓名	第 〔何〕 號	桶類			第 〔何〕 號	第 〔何〕 號			第 〔何〕 號	第 〔何〕 號	第 〔何〕 號		
	口徑	胴徑					底徑	深	石數		検査年月日	事	故					

酒桶類容量調査簿

何 縣府

附箋

〔明治何年何月何日縣國郡町村何番地何某へ貸渡ス①〕

二百十ノ次へ入

第十三類 酒造絞油味噌醬油

酒桶瓶類容量調査簿										

何  
縣府


第四號雛形

造酒搾リ器械封緘請書

何國郡區番地

何 某

表 紙

裏 面

凡例

本表ハ封緘並ニ解封ノ都度雛形中朱書ノ通記入ノ上其証トシテ①印ノ箇所へ主任官ノ見認印ヲ捺シ②印ノ箇所へ營業人ヲシテ調印セシムヘシ

朱  
用紙美濃紙

〔印ハ朱書〕

御請書

〔蒸溜器械請書モ本書式ニ倣ヒ別冊ニ製スヘシ〕

私所持之造酒搾リ器械左ノ箇所々々御封印相請候ニ付右器械(使用洗滌)之節ハ御成規  
之通其旨御届仕御解封可願上尤御解封ノ上ハ左ニ掲クル日數中ニ必(使用洗滌)ヲ相了  
リ御届ノ上御再封相請可申候仍テ御封緘並ニ御解封ノ都度其年月日及(使用洗滌)日數  
ヲ左ニ掲記シ御請印仕候也

〔何府國郡町番地〕

酒造營業人

〔何 某 〇〕

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

御封緘箇所

一酒槽樋口

壹ヶ所

一男柱孔

壹ヶ所

何

縣 府

御封緘年月日

〔①〕明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日〔〇〕

〔②〕明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日〔〇〕

御封印取扱年月日

明治何〔①〕年〔何〕月〔何〕日

明治何〔①〕年〔何〕月〔何〕日

器 械 使 用 日 數

〔使用〕明治何〔何〕年〔何〕月〔何〕日ヨリ〔〇〕何〔何〕日間

〔洗滌〕明治何〔何〕年〔何〕月〔何〕日ヨリ〔〇〕何〔何〕日間

御封緘年月日		御封印取扱年月日		器 械 使 用 日 數	
〔①〕	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日〔〇〕	明治何〔①〕年〔何〕月〔何〕日	明治何〔①〕年〔何〕月〔何〕日	〔使用〕	明治何〔何〕年〔何〕月〔何〕日ヨリ〔〇〕何〔何〕日間
〔②〕	明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日〔〇〕	明治何〔①〕年〔何〕月〔何〕日	明治何〔①〕年〔何〕月〔何〕日	〔洗滌〕	明治何〔何〕年〔何〕月〔何〕日ヨリ〔〇〕何〔何〕日間



第五號 雛形

検査簿甲乙ト押切ルベシ

印切押廳骨

明治何年度清酒造石検査簿

何國郡區  
町村 番地

何 某

表

紙

凡例

本表ハ造石検査ノ都度朱書ノ通り順次記入シ且ツ其証トシテ①印ノ箇所  
 へ主任官ノ見認印ヲ捺シ②印ノ箇所へ營業人ヲシテ調印セシムベシ尤モ  
 該雛形ハ検査上調査ヲ要スル事項ノ大概ヲ掲載セルモノニ付各地方ノ實  
 況ニヨリ適宜項欄ヲ増補シ又ハ其位置ヲ轉換スルモ妨ケナシト雖モ可成  
 本表ノ振合ニ據ルベシ  
 但シ清酒外ノ酒類モ渾テ本表ニ準シ調製スヘシ

裏

面

〔何〕年度清酒醸造法

〔括弧〕内ハ朱書

仕込順號	〔數〕			仕込月日	〔何〕月〔何〕日	〔何〕月〔何〕日	〔何〕月〔何〕日	〔何〕月〔何〕日	〔何〕月〔何〕日	計
	標	酒	初							
	仕込	蒸米	仕込							
	水	米	斗							
	〔何〕	〔何〕	〔何〕							
	斗	斗	石							
	〔何〕	〔何〕	〔何〕							
	石	石	石							
	〔何〕	〔何〕	〔何〕							
	石	石	石							
	〔何〕	〔何〕	〔何〕							
	石	石	石							
	〔何〕	〔何〕	〔何〕							
	石	石	石							



第 [ ] 號 [ ] 營業免許鑑札番號		營業人居所 [ ] 何國何區何町何番地		營業人姓名 [ ] 某 [ ]	
棟數	本宅 <small>酒造ニ屬スル 倉庫</small>	別宅 <small>酒造ニ屬セサ ル倉庫</small>	地名番地	地名番地	地名番地
[何]	[何] 棟數	[何] 棟數	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地
[何]	[何] 棟數	[何] 棟數	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地
[何]	[何] 棟數	[何] 棟數	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地
[何]	[何] 棟數	[何] 棟數	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地
[何]	[何] 棟數	[何] 棟數	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地	[何] 何府何國何郡何町何番地

製酒類目		清酒造石検査簿	
製造酒類	見込	元米又ハ酒粕	焼酎
[何] 何	[何]	[何] 石又ハ何貫目	[何] 石
[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]

酒名桶號	石數	検査年月日	酒名桶號	石數	検査年月日	賣主居所姓名
[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]

古酒検査		買入酒検査	
酒名	石數	酒名	石數
[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]

桶瓶數		酒造用諸器械	
總數	酒樽	蒸溜器	暖氣釜
[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]
[何]	[何]	[何]	[何]

種目	清酒	米白	米	支米壹割合ニ付	支春減割合ニ	届出年月日
最初見込届高	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]
[石減ハ又石増]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]
差引計	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]	[何]

合 計				
[數]				
蒸米	麴米	仕込水		
[何拾何石]	[何拾何石]	[何拾何石]		
[何拾何石]	[何拾何石]	[何拾何石]		
[何拾何石]	[何拾何石]	[何拾何石]		
[何拾何石]	[何拾何石]	[何拾何石]		

清酒造石檢査簿

何

縣府

							清酒造石検査簿
							何 縣 府

				酒もと検査		〔括弧〕内ハ朱書
もと立 順 號	検査 もと と 數	一もとノ釀 造法	もと立 年月日	檢 査 年月日	全上 使用 分數	
〔何〕號ヨリ 〔何〕號マテ	〔何〕號ヨリ 〔何〕號マテ	〔何〕號ヨリ 〔何〕號マテ	蒸米〔何〕斗 麴米〔何〕斗 仕込水〔何〕斗	明治〔何〕 年〔何〕月 〔何〕日	明〔何〕 〔何〕年〔何〕 月〔何〕日	〔數〕 〔何〕號ヨリ 〔何〕號マテ

〔括弧〕内朱書

もろみ検査

清酒検査

順仕 號込	號桶	石 數	検査年 月日		〔何 號〕 〔何拾何 <sup>①</sup> 石〕
			〔何〕 月	〔何〕 日	

清酒造石検査簿

何

縣府

合									
計									
〔何百何拾何石〕									
合									
計									
〔何百何拾何石〕									

紙 表

第六號雛形

明治何年度  
酒造新規營業人名表

何  
縣府

鑑札番號	國郡區		姓 名
	町	村番地	

合計							

右ハ明治何年一期酒造新規營業免許人名書面之通候也

年 月 日

大藏卿宛

縣府  
長官姓名印

第七號雛形

明治何年一期  
造酒見込届種目石數表

何  
縣府

紙 表

<p>第七號雛形</p> <p>明治何年一期 造酒見込届種目石數表</p> <p>何 縣府</p>							
---	--	--	--	--	--	--	--



凡例

裏  
左ニ掲クルモノハ一郡區ト全管總計トノ二例ヲ以テス郡區ハ其數ニ從ヒ之ヲ增加スヘシ  
銘酒種類中一類二類ニ屬スヘキモノアルハ該類別區書中豫備欄内ヘ掲記スヘシ故ニ茲ニ空白ノ欄ヲ設ケテ以テ之レニ充ツ  
本表ノ外造酒見込届石高増減表造酒検査濟石高表酒造稅表モ前二項ノ例ニ同シ故ニ各表ニ就テ之レヲ贅セズ  
種目中元支米ト標示シタルハ酒類中元米ヲ用ユルモノ最モ多ケレハナリ元米ヲ用ヒサルモノハ各其品名ヲ記スヘシ譬ヘハ燒酎ノ元粕幾貫匁ト掲クルカ如シ  
面  
造酒見込届高増減表モ又之レニ同シ

何	郡區名類別		種目
	類一	類二	
計	清酒	濁酒	元 玄 米
	計	計	元 白 米
			製 酒

郡		總			計		
類二	類三	類一	類二	類三	類二	類三	計
燒酎	白計	味酒	銘酒	清酒	濁酒	燒酎計	白計
計	計	計	計	計	計	計	計

右ハ明治何年一期造酒見込届種目石數書面之通候也

年 月 日

府 長官姓名印

大藏 卿 宛

第十三類 酒造絞油味噌醬油

第十四年二月  
一日割註四月  
ハ三月五月ハ  
四月七月ハ六  
月ノ誤ノ音通  
達アリ

紙 表

第八號雛形

明治何年度

造酒見込届石高増減第何次報告表

何 縣 府

裏

凡例

表中見込届石高トアルハ第一次ノ増減表ニ十一月ヨリ於テハ最初ノ見込  
届石高ヲ以テシ第二次ノ増減表ニ五月ヨリ於テハ第一次増減表ノ更定  
見込届石高ヲ以テス第三次ノ増減表モ之ニ倣フヘシ  
表中差引増減ノ石高ハ標目ニ示スカ如ク増額ハ墨書シ減額ハ朱書スヘ  
シ

郡區名	類別	酒名	種目	石高	見込届 石高	増石高	減石高	差引 増(減)	更定見込 届石高
一									
		製	元	元					
		酒	白	白					
			米	米					
			酒	酒					

郡										何									
類 三					類 二					類									
銘酒		味淋		白酒		燒酎					濁酒		計						
計		製	元	元	製	元	元	計			製	元	元	計					
		酒	白	白	酒	白	白				酒	白	白						
			米	米		米	米					米	米						
			酒	酒		酒	酒					酒	酒						

第十三類 酒造絞油味噌醬油

二百二十九

二百二十八

總計											類別	酒名	種	石高	見込届	増石高	減石高	差引増	更定見
三			類		二		類												
味淋	白	計			燒酎	計			濁酒	清酒	製	元	元	元	元	元	元	元	元
元	元	計							製	製	製	白	白	白	白	白	白	白	白
白	米								酒	米	米	米	米	米	米	米	米	米	米
米																			

右ハ(明治何年何月ヨリ同年何月マテ)造酒見込届石高増減書面之通候也

年月日 大藏卿宛 府長官姓名印

類		製酒	
銘酒	計		

第九號雛形  
明治何年度  
造酒検査済石高第何期報告表  
何 縣府

裏  
凡例  
表中検査報告済石高トアルハ既ニ検査済石高表ヲ以テ報告ヲ了  
セシモノニシテ第二期以後ノ表ニ於テ之レヲ掲載スルモノトス  
則第二期表ニ於テハ第一期表ノ合計高第二期表ニ於テハ第二期  
表ノ合計高ヲ於ニ移記ス内廢取等ニ付變製又ハ廢棄石高差引殘  
石高又之レニ同シ但シ当期(第一期報告済ノ後第二期報告以  
前ノ如キヲ云フ)中廢取變製等アルキハ之レヲ合算シテ掲記ス  
ヘシ

郡			何			名區郡			
類三		類二	類一		別類				
計	銘酒	味淋	白酒	計	燒酎	計	濁酒	清酒	石高
									検査済石高 内 腐敗等ニ付變製 又ハ廢棄石高 差引殘石高
									合計

計			總						
類三		類二	類一		別類				
計	銘酒	味淋	白酒	計	燒酎	計	濁酒	清酒	石高
									検査済石高 内 腐敗等ニ付變製 又ハ廢棄 差引殘石高
									合計

右ハ(明治何年何月ヨリ同年何月マテ)造酒検査済石高書面之通候也

長官姓名印

第十三類 酒造絞油味噌醬油

第十號雛形

大藏卿宛

外	差引殘	拂			受		件名	何縣府
		計	書換渡	再渡	新規渡	計		
書換返納							鑑札枚數	明治何年一期酒類製造免許鑑札受拂計算表
廢業返納							員	

右ハ明治何年一期酒類製造免許鑑札受拂書面之通候也

年月日

大藏卿宛

府長官姓名印

表紙裏面

第十一號雛形

明治何年度

酒造返納鑑札消却人名表

何縣府

凡例

事故欄内へハ廢業賣渡讓與改名代替轉居等ノ別ヲ記入スヘシ

右ハ明治何年一期酒造營業者廢業並ニ書換返納鑑札人名書面之通候也

合計											事故	鑑札番號	國郡區 町村番地	姓名	

二百二十六

紙 表

郡		何				酒 稅
造 石 類	造 酒 別 類	造 石 稅	內		免 許 稅	
			造 石 稅 分	三 類 中 之		
濁 酒	清 酒					
		石 數	稅 金	酒 造 場 數	酒 造 人 員	
稅 金	石 數	計				

明治何年度  
酒 造 稅 表

年 月 日

大藏卿宛

縣府 長官姓名印

何 縣府

第十三類 酒造、絞油、味噌、醬油 二百二十七

計												區								
譯 內 稅 石 造						譯 內			酒			譯 內 稅								
類 三			類 二			類 一			別 類			免 許 稅			類 三 類 二					
銘	味	白	燒	潤	清	酒	酒	酒	名	造	內	內	酒 造 場 數		酒 造 人 員		銘	味	白	燒
										石 數	除 石 稅 免 之 分	分 三 類 中 之								
										稅 金	造 石 數	內								
										石 數	除 石 稅 免 之 分	分 三 類 中 之					稅 金	石 數	稅 金	石 數
										計										

右ハ明治何年一期酒造稅書面之通候也  
年 月 日

大藏卿宛

府 長官姓名印

第拾三號雛形

明治何年度

造石稅免除酒類(製造見込屆成)種目石數表

紙 表

何 縣府

總	區 郡 何				郡 何 名 目	
	合 計				酒 名	
					石 數	
					酒 造 場 數	
					人 員	

計					
合	計				

右ハ明治何年一期造石稅免除酒類製造見込種目石數書面之通候也

年月日

大藏卿宛

府長官姓名印

乙第十二號

明治十二年二月廿六日内務大藏兩省達

府縣

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免許鑑札下付致來候向モ有之候處右ハ醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下付致居候鑑札ハ返納致サセ可申此旨相達候事但鑑札返納ノ上ハ其品目内務大藏兩省ニ届出ツ可シ

別紙

精劑

酒精

再製酒精

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ホフマン氏鎮痛液  | 甘鹽精       |
| 甘硝石精      | 礮砂精       |
| 礮砂加阿魏精    | 複方白芷精     |
| アネース精     | 芳香精       |
| 芳香礮砂精     | 複方アルモラシア精 |
| カフェーテ精    | 龍腦精       |
| ココ、フオルム精  | 桂皮精       |
| 枸櫞皮精      | 山蒼菜精      |
| 蟻精        | 杜松子精      |
| 複方杜松子精    | ラーヘンデル精   |
| 複方ラーヘンデル精 | 檸檬精       |
| 複方マスチック精  | 英國縮葉薄荷精   |
| 椒性薄荷精     | 薄荷精       |
| ミールシア精    | 肉豆蔻精      |
| 迷迭香精      | 石鹼精       |
| セルヒルリ精    | 芥子精       |

第十三類 酒造、絞油、味噌、醬油



双鸞菊精	芙蓉精
失鳩答精	寶菱答利精
菲沃斯精	高荳精
椿木龍精	アルニカ花精
コロシクム實精	橙皮精
幾丁	
亞爾蘇丁幾	複方亞爾蘇丁幾
双鸞菊丁幾	蘆薈丁幾
複方蘆薈丁幾 (蘆薈沒藥丁幾)	苦味丁幾
ホーメ氏苦味丁幾	アルニカ丁幾
芳香丁幾	阿魏丁幾
亞的兒製阿魏丁幾	橙皮丁幾
新鮮橙皮丁幾	バルサム丁幾
荳蔻丁幾	安息香丁幾
複方安息香丁幾	ビュッコ丁幾
泥葛丁幾	コロソバ丁幾
	芳香酸丁幾

複方龍腦丁幾	亞的兒製龍腦丁幾
芫菁丁幾	亞的兒製芫菁丁幾
蕃椒丁幾	益智丁幾
複方益智丁幾	カスカリラ丁幾
亞的兒製カストル丁幾	カナダ産カストル丁幾
シピリア産カストル丁幾	阿仙藥丁幾
褐色機那丁幾	赤色機那丁幾
複方機那丁幾	キノイジ子丁幾
キラタ丁幾	複方ヨロロホルム丁幾
黃色機那丁幾	桂皮丁幾
コーシ子ール丁幾	コルシクム丁幾
コロシント丁幾	失鳩答丁幾
サフラン丁幾	畢澄茄丁幾 (キユベバ丁幾)
梘梘丁幾	石鹼丁幾
複方アルモラシヤ丁幾	シキタリス丁幾
亞的兒製シキタリス丁幾	續隨子丁幾

醋酸鉄丁幾	鹽化鉄丁幾
亞的兒製鹽化鉄丁幾	林檎酸鉄丁幾
沒食子丁幾	ゲンチアナ丁幾
複方ゲンチアナ丁幾	癒瘡木丁幾
揮發性癒瘡木丁幾(礮砂加癒瘡木丁幾)	綠藜蘆丁幾
ヘレニード丁幾	忽布丁幾
ヒオス丁幾	ヨシウム丁幾
複方ヨシウム丁幾	脫色ヨシウム丁幾
吐根丁幾	ヤーラツパ丁幾
複方ヤーラツパ丁幾	キノ丁幾
ラッニア丁幾	ラリシス丁幾
複方ラーヘンデル丁幾(ラーヘンデル丁幾)	ロベリア丁幾
檸檬 <sup>レモン</sup> 丁幾	リュブリアニア丁幾
亞的兒製ロベリア丁幾	亞的兒製肉豆蔻丁幾
肉豆蔻丁幾	沒藥丁幾
麝香丁幾	

揮發鹽化鉄丁幾 (ベスチユヘフ氏神經丁幾)	阿片丁幾
番木鱉丁幾	舍電華謨氏阿片丁幾
安息香阿片丁幾	脫臭阿片丁幾
單阿片丁幾	地榆丁幾
礮砂精加阿片丁幾	ビレトリユム丁幾
複方松芽丁幾	規尼涅丁幾
括失亞丁幾	ヤーラツパ脂丁幾
礮砂精加規尼涅丁幾	水製大黃丁幾
大黃丁幾	大黃加旃那丁幾
酒製大黃丁幾	麒麟血丁幾
サピナ丁幾	加里加海葱丁幾
海葱丁幾	遠志丁幾
麥奴丁幾	セルベンタリア丁幾
旃那丁幾	蔓陀羅華丁幾
複方スピランチス丁幾	琥珀丁幾
亞的兒製馬錢子丁幾	

- シユンブル丁幾
- トリユタナ丁幾
- 纈草丁幾
- 喃砂精加纈草丁幾
- 生姜丁幾
- 亞的兒製荳蔻丁幾
- 亞的兒製非沃斯丁幾
- 白黎蘆丁幾
- 酒劑
- 蘆薈酒
- 芳香酒
- 龍腦酒
- コロシクム酒
- コロシクム實酒
- 鎮酒
- 吐根酒
- チユヤ丁幾
- トキシコデンドリ丁幾
- 亞的兒製纈草丁幾
- プアニルラ丁幾
- 強生姜丁幾
- 亞的兒製失鳩答丁幾
- 亞的兒製龍腦丁幾
- 苦味酒
- 橙皮酒
- 機那酒
- コロシクム根酒
- 麥奴酒
- 枸橼酸鎮酒 (枸橼酸アンモニア鎮酒)
- ペプシ子酒

大黃酒  
アンチモニー酒  
酒石酸加里鎮酒

海葱酒  
煙草酒

第一千六百六十一 明治十二年八月二十一日内務大藏兩省達

乙第三拾三號

府 縣

本年二月乙第拾貳號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ノ取扱方相違置候處右達書ニ掲載セル品目外ノモノニシテ酒類ヲ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其種類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許ヲ可爲受儀ト可相心得此旨相達候事  
但酒造營業人及酒類受賣營業人於テ酒精或ハ再醱酒精ヲ蒸餾シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニ據リ課稅スヘシ

第一千六百六十二 明治十三年九月廿七日布告

第四拾壹號

替廻營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

替廻營業稅則

第一章 免許證札 營業稅

第十三類 酒造 絞油 味噌 醬油

第十四年度大藏省  
第十一號  
逕達ヲ以テ免許  
スルヲ見本ヲ渡

第一條 凡ソ釀造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

釀造營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受ケヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ釀造賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外ニ掲出スベシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス釀造ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二千六百六十三 明治十三年十一月廿四日大藏省達

乙第四拾號

府 縣

本年九月第四拾壹號ヲ以テ釀造營業稅則御布告相成候ニ付右取扱心得會別紙之通相定候條此旨相達候事

別紙

釀造營業稅則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ租稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項 免許鑑札離形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

第三項 製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フ者アルハ最初授與シタル鑑札差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印(第五項離形ノ如シ)ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但鑑札裏面餘白盡キタルハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第十三類 酒造絞油味噌醬油

第五項 免許證印ハ左ノ雛形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ  
但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之ヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年一期  
替翅營業免許之証

細輪廓 角切 字体楷書  
印肉朱 寸法豎巾曲尺一分寸四  
横巾曲尺四分

第六項 稅則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルハ雙方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳(賣渡讓渡人所在ノ管廳)ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳(買受讓受人所在ノ管廳)ヘ添翰(該期免許稅納濟且免許鑑札ハ取置キタル旨明記スヘシ)ヲ作り之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第七項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第八項 廢業并書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取締無之様消却スヘシ

第九項 稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

寸法豎巾曲尺三尺 横巾曲尺八寸

免許鑑札ノ番號

第何號

替翅賣捌所  
何府郡區  
何縣國村町番地  
何 某

第十項 稅則第五條賣上帳簿差出シタルキハ其記載ノ石數及ヒ購求者居處姓名等精竅ニ檢査ヲ遂ケ檢印ノ上下渡スヘシ而シテ該帳簿ハ營業中ノヲ保存セシムヘシ

第十一項 營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第二款 申牒期限

第十二項 稅則第四條販賣見込ノ石數ハ每一期分第二號雛形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ其期十一月十五日限り差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

但本文届出ノ後其増減ハ三箇月毎ニ取纏メ製表ノ上翌月十五日限り差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十三項 新規營業人員ハ三箇月毎ニ取纏メ第三號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌月十五日限り差立テ租稅局ヘ送付スヘシ

第十三類 酒造絞油味噌醬油

第十四項 免許鑑札受拂ハ每一期分第四號雛形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限り差立テ租税局へ送付スヘシ

第十五項 返納鑑札消却ノ分ハ第五號雛形ニ倣ヒ人名表ヲ調製シ翌期十月十五日限り差立テ租税局へ送付スヘシ

第十六項 營業稅ハ每一期分第六號雛形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限り差立テ租税局へ送付スヘシ

第十七項 販賣シタル石數ハ每一期分第七號雛形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立テ租税局へ送付スヘシ

第 號雛形

地方管廳ノ押切印

租稅局長ノ割印

製造場  
國郡區町村番地

第何號

營業免許鑑札

何府國郡區町村番地

年月日 何之誰

免許ノ年月日

第十三類 酒造絞油味噌醬油


第貳號離形

(括弧)内ハ朱書

郡區	種別	何縣府	明治何年一期替廻販賣見込石數表	製造場數	人員
	製造		見込高		
			全上増		
			全上(減)		
			差引石高		
合計					

合計									

右ハ何年一期替廻販賣見込石數書面之通候也

年月日

(府縣)長官姓名印

大藏卿宛

紙表  
 第三號離形  
 明治何年度  
 替廻新規營業人名表


合計	鑑札番號	國郡區	町村番地	姓名

右ハ明治何年一期替廻製造營業新規免許人名書面之通候也

年月日

大藏卿宛

(府縣)長官姓名印

第四號雛形

何 縣府	件 名	受 越 取 高			拂			差 引 殘	外	
		計	受 取 高	越 高	計	再 渡	新 規 渡		書 換 返 納	廢 業 返 納
明治何年一期替廻製造免許鑑札受拂計算表	鑑 札 枚 數									
頁										

第十三類 酒造(絞油)味噌(醬油)



右ハ明治何年二期替廻製造免許鑑札受拂書面之通候也

年月日

大藏卿宛

縣府 長官姓名印

第五號雛形

明治何年度

替廻返納鑑札消却人名表

紙

何 縣府

裏

凡例

事故欄内ハ廢業賣渡讓與改名代替轉居等ノ別ヲ記入スヘシ

面

事故	鑑札番號	國郡	町村番地	姓名
合計				

右ハ明治何年二期替廻營業者廢業並ニ書換返納鑑札人名書面之通候也

明治十四年大藏省達ヲ以テ形更正ス

年月日

第六號雛形

大藏卿宛

縣長官姓名印

明治何年一期營廻營業稅表

何縣府	郡區種別	營業稅	製造場數	人員
合計				

右ハ明治何年一期營廻營業稅書面之通候也

年月日

大藏卿宛

縣長官姓名印

第七號雛形

明治何年一期營廻販賣石數表

何縣府	郡區種別	販賣石高	製造場數	人員
合計				

右ハ明治何年一期營廻販賣石數書面之通候也

年月日

大藏卿宛

縣長官姓名印

米穀油賣買

第十三類 米穀油賣買

第一千六百六十四

明治九年九月廿七日內務省達

乙第百十二號

府 縣

米油限月賣買ノ儀ニ付テハ明治七年<sup>月十二</sup>太政官第百二十八號公布ノ旨モ有之候處各地方ニ於テ從前ノ慣習私則等ニ據リ類似ノ業体相營來候向モ有之哉相聞ヘ不都合ニ候條心得違ノモノ無之條嚴密取締可致候此旨相達候事

第一千六百六十五

明治九年八月一日布告

第百五號

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度モノハ會社規則取調可願出旨明治七年<sup>月十二</sup>第百二十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

別冊

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノメ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セント欲スル者ハ內務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 內務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否

第十四年第三十一號布告ヲ以テ條例中內務省及ハ大藏卿トアルハ都テ農商務省及ヒ農商務卿ト改メ正ス

トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ムモノハ更ニ其趣ヲ申立內務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三万円以上タルヘシ  
第二節 資本金ハ百圓ヲ以一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調劑シ區戶長ノ稟書ヲ得會所創立證書及ヒ定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害障得ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ內務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第十三年第九號布告ヲ以テ改正ス  
第十二年第四號布告ヲ以テ改正ス

第十三類 米穀油賣買

同年八月十九日  
日本官達ヲ以テ  
本文中第四條ハ  
第五條ノ誤トス

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲナシ第四條ノ定限ニ隨ヒ差向キ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取等ヲ撰任スヘシ

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債証書此公債証書ハ時々相場ノ昂低ヲ以増減スヘシト雖トモ明治七年大藏省第七第二十八號達ノ信頭ヨリ減少スヘカラスヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ証書ヲ乞受ケ其寫ヲ内務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ内務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願何屆又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スルコトハ其會所ノ名義ヲ用非會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許ルサス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推任シテ新舊交代セシムヘシ

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差纏ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ

第十三類 米穀油賣買

同十三年第十  
九號布告ヲ以  
テ改正ス

退職セシムルヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ經テ賣買本人又ハ仲買人ト爲ルコトヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖モ仲買人タルノ身元金ヲ出サシムルコト第七條第三節ノ通りタルヘク賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ中發言ノ權ナク又役員ノ擢舉ニ應スルコトヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサヘル間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者トス

第十三條第十  
九號布告ヲ以  
テ改正ス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人トハ肝煎ノ承認ヲ經相當ノ身元金ヲ差入レテ自己ノ賣買取引ヲサシ又ハ社外人ノ依頼ヲ受ケ仲買人トナリ之ニ從事スル者ヲ云フ但他人ノ依頼ヲ受ケ仲買ヲ爲シタルキハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

第二節 仲買人タラントスル者ハ會所ニ於テ定タル期日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名住所及ヒ丁年ナルコト米商人タルコト等ヲ詳記シテ之ニ調印シ且ツ二名以上証人ノ連印ヲ要ス

第三節 仲買人タルノ身元金ハ少クモ百圓以上タルヘシ

第四節 仲買人退社セントスルキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則

第一節 會所ニ於テハ仲買人ノ身元金及ヒ証據金ヲ使用スヘカラス

第二節 會所ハ賣買上ノ差違ヲ解キ違約ノ處分ヲ爲スノ義務アリ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現米金ノ受渡シヲナ

第十三條第十  
九號布告ヲ以  
テ改正ス

第十三條第十  
九號布告ヲ以  
テ改正ス

第十三條 第九號布告ヲ以テ改正ス  
第十四條 第十號布告ヲ以テ改正ス  
第十五條 第十一號布告ヲ以テ改正ス  
第十六條 第十二號布告ヲ以テ改正ス  
第十七條 第十三號布告ヲ以テ改正ス  
第十八條 第十四號布告ヲ以テ改正ス  
第十九條 第十五號布告ヲ以テ改正ス  
第二十條 第十六號布告ヲ以テ改正ス  
第二十一條 第十七號布告ヲ以テ改正ス  
第二十二條 第十八號布告ヲ以テ改正ス  
第二十三條 第十九號布告ヲ以テ改正ス  
第二十四條 第二十號布告ヲ以テ改正ス  
第二十五條 第二十一號布告ヲ以テ改正ス  
第二十六條 第二十二號布告ヲ以テ改正ス  
第二十七條 第二十三號布告ヲ以テ改正ス  
第二十八條 第二十四號布告ヲ以テ改正ス  
第二十九條 第二十五號布告ヲ以テ改正ス  
第三十條 第二十六號布告ヲ以テ改正ス  
第三十一條 第二十七號布告ヲ以テ改正ス  
第三十二條 第二十八號布告ヲ以テ改正ス  
第三十三條 第二十九號布告ヲ以テ改正ス  
第三十四條 第三十號布告ヲ以テ改正ス  
第三十五條 第三十一號布告ヲ以テ改正ス  
第三十六條 第三十二號布告ヲ以テ改正ス  
第三十七條 第三十三號布告ヲ以テ改正ス  
第三十八條 第三十四號布告ヲ以テ改正ス  
第三十九條 第三十五號布告ヲ以テ改正ス  
第四十條 第三十六號布告ヲ以テ改正ス  
第四十一條 第三十七號布告ヲ以テ改正ス  
第四十二條 第三十八號布告ヲ以テ改正ス  
第四十三條 第三十九號布告ヲ以テ改正ス  
第四十四條 第四十號布告ヲ以テ改正ス  
第四十五條 第四十一號布告ヲ以テ改正ス  
第四十六條 第四十二號布告ヲ以テ改正ス  
第四十七條 第四十三號布告ヲ以テ改正ス  
第四十八條 第四十四號布告ヲ以テ改正ス  
第四十九條 第四十五號布告ヲ以テ改正ス  
第五十條 第四十六號布告ヲ以テ改正ス  
第五十一條 第四十七號布告ヲ以テ改正ス  
第五十二條 第四十八號布告ヲ以テ改正ス  
第五十三條 第四十九號布告ヲ以テ改正ス  
第五十四條 第五十號布告ヲ以テ改正ス  
第五十五條 第五十一號布告ヲ以テ改正ス  
第五十六條 第五十二號布告ヲ以テ改正ス  
第五十七條 第五十三號布告ヲ以テ改正ス  
第五十八條 第五十四號布告ヲ以テ改正ス  
第五十九條 第五十五號布告ヲ以テ改正ス  
第六十條 第五十六號布告ヲ以テ改正ス  
第六十一條 第五十七號布告ヲ以テ改正ス  
第六十二條 第五十八號布告ヲ以テ改正ス  
第六十三條 第五十九號布告ヲ以テ改正ス  
第六十四條 第六十號布告ヲ以テ改正ス  
第六十五條 第六十一號布告ヲ以テ改正ス  
第六十六條 第六十二號布告ヲ以テ改正ス  
第六十七條 第六十三號布告ヲ以テ改正ス  
第六十八條 第六十四號布告ヲ以テ改正ス  
第六十九條 第六十五號布告ヲ以テ改正ス  
第七十條 第六十六號布告ヲ以テ改正ス  
第七十一條 第六十七號布告ヲ以テ改正ス  
第七十二條 第六十八號布告ヲ以テ改正ス  
第七十三條 第六十九號布告ヲ以テ改正ス  
第七十四條 第七十號布告ヲ以テ改正ス  
第七十五條 第七十一號布告ヲ以テ改正ス  
第七十六條 第七十二號布告ヲ以テ改正ス  
第七十七條 第七十三號布告ヲ以テ改正ス  
第七十八條 第七十四號布告ヲ以テ改正ス  
第七十九條 第七十五號布告ヲ以テ改正ス  
第八十條 第七十六號布告ヲ以テ改正ス  
第八十一條 第七十七號布告ヲ以テ改正ス  
第八十二條 第七十八號布告ヲ以テ改正ス  
第八十三條 第七十九號布告ヲ以テ改正ス  
第八十四條 第八十號布告ヲ以テ改正ス  
第八十五條 第八十一號布告ヲ以テ改正ス  
第八十六條 第八十二號布告ヲ以テ改正ス  
第八十七條 第八十三號布告ヲ以テ改正ス  
第八十八條 第八十四號布告ヲ以テ改正ス  
第八十九條 第八十五號布告ヲ以テ改正ス  
第九十條 第八十六號布告ヲ以テ改正ス  
第九十一條 第八十七號布告ヲ以テ改正ス  
第九十二條 第八十八號布告ヲ以テ改正ス  
第九十三條 第八十九號布告ヲ以テ改正ス  
第九十四條 第九十號布告ヲ以テ改正ス  
第九十五條 第九十一號布告ヲ以テ改正ス  
第九十六條 第九十二號布告ヲ以テ改正ス  
第九十七條 第九十三號布告ヲ以テ改正ス  
第九十八條 第九十四號布告ヲ以テ改正ス  
第九十九條 第九十五號布告ヲ以テ改正ス  
第一百條 第九十六號布告ヲ以テ改正ス

スヘシ但シ定期ノ分ト雖モ其期限三ヶ月ヨリ永カルヘカラス

第二節 賣買ヲ約シタルハ賣買主ノ雙方ヨリ其約定ノ証據金ヲ會所ニ預リ置クヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一宛ヲ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニヨリ追証據金増証據金等ヲ差入レシムルコトヲ得ヘシ

第三節 賣買約定ノ期日ニ至ツテハ會所役員立會ノ上現米金ノ受渡ヲナシ其取引ヲ終ルヘシ

第四節 定期約定期限内ニ甲ヨリ乙ニ賣リシ米ヲ乙ヨリ甲ニ買戻シ又ハ甲ノ乙ヨリ買ヒシ米ヲ甲ヨリ丙ニ賣ルコトヲ得ヘシ但シ最初ニ定メタル期日ニ至テハ必ス現米金ノ取引ヲ爲スヘシ

第十一條 手数料並ニ口錢ノ制限

第一節 會所ニ於テ賣買雙方ヨリ收領スヘキ手数料ハ賣買金高十分ノ二ニ超ユ可カラズ

第二節 仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖トモ會所ニ於テ豫メ其制限ヲ立ルモ妨ケナシトス

第三節 手数料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコトヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長トナス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クコトヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスルハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ内務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル止ハ直ニ世上ニ公告シ其増減セシ名前書ヲ取纏メタル上内

務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金並積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ殘リ損益高ヲ以テ株數ニ割り合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内内務卿ニ届出且ツ世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ノ税金ハ明治八年(五月)第八十五號布告ニ照準シ前半年分ハ七月中後半分ハ翌年一月中之ヲ地方官廳へ上納シ地方官ハ一般ノ收税手續ニヨリ大藏省へ送達スヘシ

第二節 株主等へ配當スヘキ純益金一ヶ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ株主及ヒ役員仲買人ノ進退又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ内務卿ニ申告スヘシ

第十七條 官員検査規則

第一節 内務省又ハ地方官廳ヨリ時トシテ官員ヲ派出シ會所營業ノ摸樣其他諸帳簿等ヲ檢

同年八月十九日史官達ヲ以テ本文中ハ八十八號ハ八十八號大藏省ハ租稅察ノ誤トス

第十三年第十號布告ヲ以テ改正ス

查セシムルコトアルヘシ若シ右ニ付疑問等アル時ハ逐一答辨ヲ爲スヘシ

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ諸願届其他ノ書類及ヒ報告書共内務卿へ差出サントスルニハ都テ正副三通タルヘク其正副トモ必ス捺印シテ地方官廳ヲ經由スヘシ

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措又ハ背犯セシメタル實証アルキハ役員並ニ本人トモソノコノ輕重ニヨリ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二節 官員検査ノ節簿冊書類ヲ差出ストコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辨ヲ爲サハル者アルキハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第三節 會所限リ違約人ヲ處分シ過怠等ヲ申付クルハ除名或ハ株金身元金約定証據金ノ高ニ超ユヘカラス

右ノ通り制定候事

第二千六百六十六 明治九年八月十九日史官達

本年第五百五號布告米商會所條例中

第三條第二節中(第四條ノ定限)ハ(第五條ノ定限)ノ誤第七條第二節中(第七條第二節)ハ

第十三類 米穀油賣買

第十三年第十號布告ヲ以テ改正ス  
追加シ從前ノ二節ヲ三節トナシ三節ヲ四節トナス

(第八條第二節)ノ評第十五條第一節中(第八十五號布告)ハ(第八十八號布告)ノ誤同條同節中(大藏省)ハ(租稅寮)ノ誤ナリ

第二千六百六十七 明治十二年二月一日布告

第四號

明治九年 月 第五號布告米商會所條例中左ノ通改正候條此旨布告候事

米商會所條例

第二條第三節左ノ但書ヲ加フ

但創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルコトヲ明記スヘシ

第八條第一節中「仲買ヲ爲シタルキ」ノ下「ト雖モ會所ニ於テハ都テ仲買人ノ賣買シタルモ」ト看做スヘシ」ニ改ム

第十一條第一節中「手数料」ノ下「現場取引ハ賣買金高千分ノ一ヨリ多カラス二千分ノ一ヨリ少ナラス又定期取引ハ千分ノ一ヨリ少ナカラス千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ」ニ改ム

同條第二節中「任スト雖モ」ノ下「其制限ハ前節手数料ノ高二超ユヘカラス」ニ改ム

第二千六百六十八 明治十二年四月十五日布告

第拾九號

明治九年 月 第五號布告米商會所條例中左ノ通改正加除候條此旨布告候事

國十三年第十  
九號布告ヲ以  
テ九年第五百  
號布告第八條  
及第十一條  
第二節ヲ改正  
ス

米商會所條例第三條第二節

發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ大藏卿ノ認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

同第五條第三節

右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ撰擧シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ大藏卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ大藏卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

同第七條第二節

株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス

同第八條第一節

仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ大藏

第十三類 米穀油賣買



卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ  
身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ

同 第二節

仲買人ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス會所ニ對シテハ其賣買取引上ノ責任ヲ負フヘキモノトス

同 第三節

仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ

同第十條第一節

會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス

同 第二節

現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

同 第三節

定期賣買ヲ約定シタルキハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ証據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ二ヨリ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追証據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ増証據金ヲ差入シムヘシ

同 第四節

定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリホカルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定済ノ分ハ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人へ賣渡スヲ得

同第十一條第一節

會所ニ於テ賣買雙方ヨリ領收スヘキ手数料直取引ハ賣買金高ノ二千分ノ一ヨリ多カラス又定期取引ハ千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ

同第十六條第一節

頭取肝煎ハ株主及ヒ役員ノ進退仲買人ノ退社又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ大藏卿ニ申告スヘシ

同第十九條第一節

會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シ

第十三類 米穀油賣買

タルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルモハ役員并ニ本人トモ其輕重ニヨリ三拾  
圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

同 第二節

前節ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ依テ科シタル罰金ノ半額ヲ給ス

同 第三節

從前ノ第二節

同 第四節

從前ノ第三節

第二千六百六十九 明治九年八月一日內務省布達

甲第二十九號

本年八月太政官第百五號公布米商會所條例ヲ遵奉シ營業致度者ハ自今別冊米商會所成規ニ照  
準出願可致此旨布達候事

但昨八年大藏省甲第十六號同第十九號及ヒ同年六月心得達ノ趣ハ取消候事

別冊

米商會所成規

目錄

第十三類 米穀油賣買  
省甲第四十七  
號第九號今  
般米商會所  
例更正付本  
令米商會所  
規中低減ノ  
儀ハ自今消  
ト下心得ヘ  
シ

第一條 會所創立出願ノ手續

第二條 開業ノ手續

第三條 營業報告ノ手續

第四條 諸願屆其他書類用紙ノ事

第五條 記録保存ノ事

附

第一號 創立願書々例

第二號 創立證書々例

第三號 會所定款書例

第四號 申合規則書例

第五號 開業免狀雛形

第六號 實際報告書例

第七號 計算表書例

第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例

第九號 役員上任報告書例

米商會所成規

此成規ハ米商會所ノ條例ヲ遵奉シ該會所ヲ創立セント欲スル者ヲシテ其創立出願ノ手  
續及ヒ社則其他ノ標準等ヲ豫知セシメンカ爲メ之ヲ制定スルモノナリ

第一條 會所創立出願ノ手續

第一節 凡ソ米商會所條例ノ旨趣ニ基キ會所ノ發起人ヨリ差出スヘキ創立願書ハ書例第一  
號ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第二節 創立證書ハ會所ヲ創立スルニ付キ綱領ノ條件及ヒ株主ノ約束ヲ明記シ總頁ヲシテ

第十三類 米穀油賣買

二百七十七

必ス之ヲ確守踐行セシムヘキ旨ヲ保証スルモノナリ書例第二號ニ照準シテ之ヲ編製スヘシ

第三節 會所定款ハ會所ヲ創立スルニ付キ發起人該會所ノ便宜ヲ商量決定シテ株主一同ヲ約束スヘキ條款ヲ記載スルモノナリ書例第三號ニ倣ヒ之ヲ編製スヘシ

第四節 申合規則ハ買賣取引ニ付買賣主雙方ノ間ニ於テ會所ヘ對シタル約束ノ要件等ヲ記載スルモノナリ書例第四號ニ倣ヒ成ルヘク丈ケ綿密ニ之ヲ編製スヘシ

第五節 右ノ會所定款申合規則ハ發起人ニ於テ書例中ノ箇條ヲ省略シ或ハ之ヲ増加スルモ其便宜ニ任スヘシ

第六節 當省ニ於テ會所ノ創立ヲ承認スルキハ其創立證書及ヒ會所定款申合規則等ニ當省ノ印章ヲ鈐シ地方官ニ指令シ以テ之ヲ請願人ニ達セシムヘシ

第二條 開業ノ手續

第一節 發起人會所創立ノ許可ヲ受ケタルキハ直ニ條例ノ旨趣ニ遵ヒ株主募集役員撰任等ノ順序ヲ經テ資本總高ノ内三分ノ二營業保證ノ金額ヲ其地方廳或ハ國立銀行ニ預ケ以テ開業免狀請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 會所ヨリ地方廳又ハ國立銀行ヘ預クル所ノ保證金若シ公債證書ナル時ハ夫レニ屬シタル定規ノ利子ハ會所之レヲ得ヘント雖モ其他利子ヲ收受スルコトナカレヘシ尤モ別

段ノ約定ニ據リ預ケタル時ハ其方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ地方廳ヲ經テ之ヲ當省ニ届出ヘシ

第三節 當省ニ於テハ會所ノ名ヲ以テ地方廳或ハ國立銀行ニ預ケタル現金或ハ公債證書ノ實額其會所資本總高ノ三分ノ二ニ相違ナキ確証ヲ檢シ其會所ニ開業免狀ヲ形第五號與フヘシ

第四節 會所開業ノ後ト雖モ其商業ノ摸樣ヲ檢査シ買賣主ヨリ差入タル証據金ノ合高ヲ見合セ資本金ノ額ヲ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 營業報告ノ手續

第一節 會所頭取肝煎ハ左ノ報告ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ地方官ニ於テハ一應檢査ノ上當省ヘ差出スヘシ

第一 會所毎月實際報告

是ハ毎月前一ヶ月賣買約定ニ係リタル金穀ノ合高ヲ掲ケ其内現場定期ノ取引ヲ區分シ之ニ平均相場ヲ附記スヘシ但書例第六號ニ照準シテ之ヲ編製シ翌月五日マテニ該地ヲ差立ツ可シ

第二 總計表報告

是ハ毎年前一ヶ年營業ニ係リタル金買出納高ヲ掲ケ其内株金并ニ手数料等ノ總收

第十三類 米穀油賣買

入ヨリ税金及ヒ配當金其他社費一切ノ遣拂又ハ積立金ノ有無等ヲ記載スヘシ但シ書例第七號ニ照準シテ之ヲ編製シ翌年一月中ニ該地ヲ差立ツヘシ

第三 株主仲買人姓名表報告

是ハ株主仲買人ノ姓名族籍住所株數及ヒ身元金高等ヲ記載スヘシ但書例第八號ニ照準シテ之ヲ編製シ定式撰任集會ノ日ヨリ二十日ヲ限リ該地ヲ差立ツ可シ

第四 役員上任報告

是ハ頭取副頭取肝煎支配人上任ノ都度其印鑑ヲ添ユ可シ但書例第九號ニ照準シテ之ヲ編製シ上任ノ日直ニ該地ヲ差立ツヘシ

第四條 諸願届其他書類用紙ノ事

第一節 會所ヨリ地方廳ヲ經テ當省ヘ差出スヘキ諸般ノ願届其他ノ書類及ヒ報告書等ハ都テ美濃紙又ハ該會所ノ名號アル界紙ヲ用フヘシ

第二節 創立証書及ヒ會所定款申合規則ノ本書ハ必ス証券界紙ヲ用フヘシ又株券其他証券類ハ印稅規則ニ從フヘシ

第五條 記録保存ノ事

第一節 創立証書會所定款申合規則及ヒ頭取肝煎撰舉社中集會ニ就テノ報告議事ノ如キ會所ニ關係スル書類ハ一切之ヲ記録ニ綴屬シ頭取肝煎之ニ記名調印シ以テ後日ノ証據參觀

ノタメニ保存シ臨時政府ノ檢査ヲ受クベシ

第一號 創立願書々例

米商會所創立願

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ニ基キ凡ソ下條ノ目的ニ據テ協同結社米商會所ヲ創立シ營業致シ度候ニ付右創立御許可被成下度依テ別紙創立証書并ニ定款申合規則共相添此段奉願候

何府使  
縣管下

何港町

何万軒

何百万石

何十万石

何十万石

何郡何港ヨリ輸出

何國何郡ヨリ輸入

一 創立場所

一 戶數

一 該地費消米

一 同產出米

一 輸出或輸入米

內譯

高米凡何部

第十三類 米穀油賣買

同 何部

何國何郡へ廻送

何郡何港へ廻着

何百人

何千方石

一米商人  
一賣買取引米凡積

右現今ノ實況及將來賣買取引ノ見込共書面之連御座候以上

年號月日

發起人

何

某

々

々

管轄地方長官宛

第二號 創立證書ノ書例

米商會所創立證書

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ米商會所ヲ創立シテ其商業ヲ經營セント謀リ此證書第五條ニ連名シタル者協議シテ左ノ條々ヲ取極候也

第一條 當會所ノ總員ハ米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ且ツ會所定款申合規則ヲ確守ス可シ

第二條 當會所ノ名號ハ何々(國名郡名又ハ所在ノ地名等)米商會所ト稱スヘシ

第三條 當會所營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿一箇年タル可シ

第四條 當會所ハ何(使府藩縣)第一大區一小区(町港)一番地ニ取建ツヘシ

第五條 當會所ノ資本金ハ一萬圓ニシテ之ヲ一百分株トナシ其内發起人ニテ所持スヘキ株數并ニ其屬籍住所姓名等左ノ表ノ如シ

株數	屬	籍	住	所	姓名
一 株 此金一 百圓	平民	華士族	一(使府藩縣)第一大區 一小区一町一番地居住寄附		某
合株數一 此金一 萬圓					總計幾人

第六條 當會所ノ株主及ヒ仲買人ハ内國人ニ限ル可シ

此證書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ自記認印致シ候追テ加入候者ハ順次連署セシメ可申候也

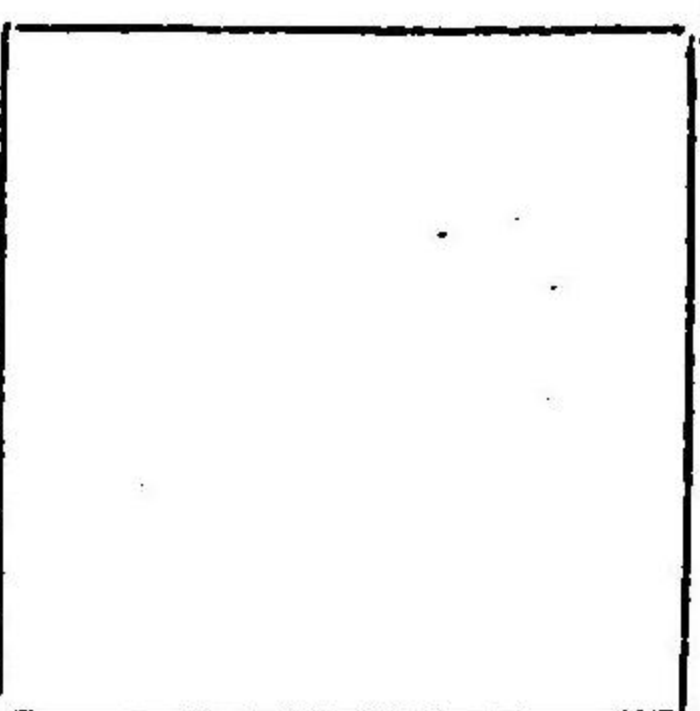
年號月日

株主等連名印

第十三類 米穀油賣買

第十二年内務省  
第十六號  
第六條ニ以テ  
第六條ニ追加  
ナシテ前ノ第  
六條ヲ第七條  
トナス

内務省  
鈐印位置



第二號 會所定款書例  
會所定款

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ何府使第1大區1小區何國  
1郡1町1番地ニ於テ之ヲ創立センカ爲メ協同結社シテ爰ニ株主一同互ニ約定スル規定  
ノ條々左ノ如シ

第一條 當會所ニ加入シ株主帳ニ記名調印スル人々ハ創立證書及此定款并申合規則ニモ之  
ヲ承諾セシ證據トシテ必ス記名調印スヘシ

第二條 當會所ハ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ニシテ其事務ハ此定款并申合規則ニ  
從ヒ之ヲ會所頭取及肝煎ニ委任ス可シ又頭取肝煎等ハ其約定ヲ監護シ取引ヲ確實ナラシ  
メ其他會所一切ノ責ニ任スヘシ

第三條 當會所ノ役員ト稱スル者ハ左ノ如シ

頭取 一人 副頭取 幾人  
肝煎 幾人

商議掛

此内 檢査掛 各幾人

出納掛

支配人 幾人

書記方 幾人

勘定方 幾人

簿記方 幾人

右ノ役員ハ各其職務ニ對シ會所ニ於テ定メタル給料ヲ受收スヘシ

第四條 當會所ノ肝煎ハ投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主ノ内ヨリ撰舉シ其人員ハ幾  
名ト定ムヘシ但シ此内幾名ハ何地(會所創立  
ノ地ヲ云)ニ一ヶ年以上在任シタルモノニ限ルヘシ又其  
撰舉ノ初集會ノ月日ハ株主一同ノ都合ニ任セ以後ハ毎年定式ノ集會ニ於テ之ヲナスヘ  
シ

右撰舉ニ應シタル肝煎ハ其同僚中ニ於テ投票ヲ以テ頭取一名副頭取幾名ヲ撰任スヘシ  
若シ頭取肝煎等ニ適當スヘキ人才アリテ衆望之レニ歸スルモ其者ノ所持株不足ナルヲ以  
テ撰舉シカマキトハ其株數ヲ定額ニ充ツルマテノ金高ニ増加セシメ然ル后撰任スルヲア  
ルヘシ

正副頭取ノ在職ハ一ケ年又肝煎ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間ヲ以テ一期トナスヘシ但シ衆望ニ由リテハ重年セシムルコトヲ得ヘシ  
毎年肝煎等撰擧ノ集會ニ於テ其人員ノ半(或ハ三分一)ヲ新任シ其順次舊員ト交代セシムヘシ故ニ初年奉職セシ人員ノ半(或ハ三分一)ハ一ケ年間又ハ殘員ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間在職タルヘシ

頭取肝煎ノ内不時ノ缺員アルトキハ他ノ頭取肝煎ニテ代人ヲ撰擧シ其缺ヲ補フ可シ但シ此代人ハ先役ノ奉職期限ヲ越ユ可カラス

支配人已下ノ役員ハ肝煎ノ衆議ニ依リ必ス社中ノ人員ニ限ラヌ又社外ヨリ之ヲ撰任スルコアルヘシ

第五條 頭取ハ會所一切ノ事務ヲ總括シ他ノ役員ヲ指揮シテ其職任ヲ盡サシムルノ權アルヘシ又頭取ハ肝煎ノ分掌各掛ヲ議定スルノ權アルヘシ

頭取ハ株主決議ノ旨趣ニ從ヒ株金納入ノ手續キヲ取極メ之ヲ株主ニ通達シ或ハ之ヲ督促シ或ハ期約ヲ違フ時ハ會所ニ於テ其本人ヘ告知ノ上株金高ヲ沒收スルノ權アルヘシ

頭取ハ米商會所條例及ヒ此定款并ニ申合規則ニ從ヒ總テ其適任ノ職務ヲ執行ヒ不正犯則ノ所行ハ自ラ之ヲ爲サハルノミナラス又他人ヲ監督スルノ責ニ任ス可シ

頭取ハ肝煎ノ集會ニ臨ミ常ニ議長トナリ其議事ヲ判決スルノ權アルヘシ

副頭取ハ常ニ頭取ノ事務ヲ翼成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルコアルヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ支配人以下ノ役員ヲ撰任シ其分掌ノ課程及ヒ其權限給料年期等ヲ取極メ又其身元引受人ヲ約定シ或ハ保証金ヲ取置キ又ハ之ヲ褒貶黜陟スル等ノ權アルヘシ

肝煎ハ衆議ヲ以テ社中ノ差違ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ社中處務上ノ成例ヲ廢立シ又ハ株主ノ衆議ヲ取シカ爲メ臨時之ヲ招集スルノ權アルヘシ

肝煎ハ毎月何日ヲ以テ肝煎定式ノ集會日ト極ム可シ又此會議ニ於テ發言ノ權利ハ一人ニ付一説ト定メ衆議ヲ取リテ其議事ヲ決定ス若シ可否ノ數相半ハスルハ議長ノ判決ニ任ス可シ

右會議ニ當リ出席ノ定員其半ニ充タサルトキハ其議事ヲ始ム可カラス但シ急遽ノ事件ハ此限ニアラサル可シ

肝煎ハ頭取又ハ其同僚中ニ於テ職任ニ不相當ノ行ヒアルカ又ハ職務ヲ怠ル者アルトキハ時宜ニヨリ其者ヲ免職スルコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シテ其是非ヲ議

シ次回集會ノ箇無名投票ノ法ヲ以テ三分二以上ノ説ニ從ヒ其可否ヲ決スヘシ  
肝煎ハ株主仲買人ノ所爲ヲ監督シ又其手ニテ設ケタル私則慣法等ヲ廢止スルノ權アル可

シ尤モ此權ヲ施スニハ先ツ集會ノ上之ヲ評議シ次回ノ集會ニ於テ決定シ之ヲ行フヘシ  
肝煎ハ社外ノ人ト社中ノ人トノ間ニ起リタル差違レニハ一切關係スルコトナカル可シ尤モ

社中ノ仲買人社外ノ人ノ爲メニ仲買ヲ爲シ退社逃亡死去等ノコアル場合ニ當リ其賣買本主ト相手タル社中ノ仲買人トノ間ニ差違レアルトキハ此限ニアラサレ可シ

此場合ニ於テ社外ノ賣買本主ヨリ肝煎ノ處決ヲ請求セル時ハ其賣買本主ヲ社中ノ仲買人同様ニ見做シ之ヲシテ肝煎ノ處決ヲ守リ決シテ違背セサルヘキ旨ノ誓詞ヲ爲サシメ然ル後之カ處決ヲナス可シ

頭取ノ決議ニ依リ肝煎ノ内幾名ニ商議掛出納掛検査掛ヲ命ス商議掛ハ常ニ會所營業事務上ノ得失利害ヲ商量討論シ及ヒ凡百ノ施設上ニ付キ其順序ヲ立テ或ハ其議案ヲ草シ之レヲ頭取ニ申陳シ又ハ社中ノ衆議ヲ取ランカ爲メ臨時集會ヲ催シ併セテ社中一般ノ疑問ニ答辯シ及違約人處分等ノコニ任スヘシ

出納掛ハ會所ニ關スル金穀出納ノコヲ擔當シ資本金并ニ身元金証據金米代金及ヒ塵穀等ヲ管守シ併テ銀行引合等ノコニ任ス可シ

検査掛ハ會所ノ監察主役ニシテ常ニ金穀ノ出納ヲ監シ諸帳簿計算ノ正否等ヲ點檢シ併セテ營業ノ實況ヲ視察シ現務ノ得失ヲ指摘シテ其顛末ヲ記録シ之レヲ頭取肝煎及ヒ株主一同ニ報告スル等ノ事ニ任スヘシ

検査掛タル者職務ヲ怠リ又ハ偏頗ノ所業其他犯則ノ所業アル時ハ其處分他ノ掛リノ者ヨリ重クスヘシ

第六條 株主定式集會ハ每年何月幾日幾度ニテモ其月日ヲ定メ記載スヘシ午前第何時ヨリ第何時マテ當會所ニ於テ之ヲ執行スヘシ其他總株數五分一以上ニ當ル株主ノ請求又ハ肝煎ノ協議ニヨリテハ臨時集會ヲ開クコアル可シ右臨時集會ヲ開クニ當リテハ其場所并ニ期日時限及ヒ議事ノ大意ヲ記シテ少クモ十日以前ニ頭取肝煎ヨリ總株主ニ報知スヘシ

總株數五分一以上ニ當ル株主ノ協議ニテ臨時集會ヲ開カント欲スルキハ其議事ノ大意ヲ頭取ニ陳ヘ招集ノ取扱ヲ請求ス可シ若シ頭取ニ於テ十五日間以上其手續ヲ怠ルトキハ請求人自ラ之ヲ招集スルコトヲ得ヘシ

株主集會ノ議長ハ頭取或ハ株主中ヨリ臨時之ヲ撰任ス可シ

株主集會ニ當リ出頭ノ總員其半ニ充タサルキハ會議ヲ延引シ更ニ他日ヲ刻ス可シ

集議ニ臨ミ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フニアラサレハ別ニ發言可否ノ多少ヲ算スルニ及ハス議長其議ヲ斷決シテ之ヲ會所ノ議定録ニ記入シ以テ他日其事ノ証據トナスヘシ若シ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フキハ議長ノ指揮ニ從テ投票法ヲ行フヘシ但シ此投票ノ多數ヲ以テ集議ノ決定ト視做スヘシ

集議ニ當リ可否ノ發言相半ハスルキハ議長之ヲ判決スルノ權アル可シ定式又ハ臨時集會ニ於テ定款并ニ申合規則ヲ加除改正スル等ハ勿論其他會所一般ニ關係セシ條件ヲ決議シタルキハ之ヲ明細ニ記シ必内務省ヘ申告スヘシ



第七條 株主ハ集議ニ臨ミ一株ニ付毎事一説ヲ發スルノ權アリトス然レトモ各其所持スル株數十株以上百株マテハ五株毎ニ一説宛百株以上八十株毎ニ一説宛ヲ増加ス可シ但シ會所ノ役員ハ發言スルヲ得ヘカラス

株主ハ其株式ヲ質入抵當トナシタル時間ハ集議ニ臨ミ發言スルヲ得可カラス株主ハ集議ニ當リ代人ヲ出シ發言セシムルヲ得可シ但シ代人タル者モ自カラ其權ヲ有スル者ニ限ル可シ

第八條 株券破損或ハ紛失セシトハ其株主ノ請求ニ應シ之ヲ書換ヘ付與スヘシ但シ破損ナレハ其舊券ト引換ヘ紛失ナレハ其次第ヲ明記シ且ツ相違ナキ旨保証人連印ノ証書ヲ差出サシムヘシ

第九條 當會所ニ於テ株主ノ集金ヲ要スル時ハ其度毎ニ必頭取ノ名ヲ以テ少クトモ十五日以前ニ其旨ヲ通達ス可シ株主タルモノ若シ集金ノ期日ニ至リ其納金ヲ怠ル時ハ更ニ頭取ヨリ報告書ヲ達シ其集金并ニ期限後ノ利子其怠慢ヨリ生ル雜費ヲモ納メシムヘシ但此報告書ニハ再ヒ其期日ヲ定メ若シ此期ヲ誤ルトハ其株式ヲ沒收スヘキ旨ヲ記載ス可シ右ノ報告書ヲ達スルニ尙ホ再期ヲ怠リ納金セサル者ハ頭取ノ意見ヲ以テ其株式ヲ沒收スルヲ得ヘシ

株主其所持ノ株式ヲ沒收セラル、時右沒收以前ニ納ムヘキ集金ハ沒收後ト雖モ尙其責ヲ

免カルヘカラス

第十條 當會所ノ資本金高ヲ増減スルハ株主ノ集會ニ於テ之レヲ決定スヘシ但シ右増減ノ許可ヲ得テ之レヲ施行スルノ方法ハ其時ニ臨ミ各株主ノ衆議ニ任スヘシ

第十一條 當會所株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入シ或ハ借金ノ抵當トナサント欲スルトハ豫メ其趣ヲ肝煎ニ申出テ其承諾ヲ受ケテ後之ヲ行フヘシ

株主其所持ノ株式ヲ賣買授受スルニ當リテハ雙方連印ノ証書ヲ肝煎ニ差出スヘシ右証書ヲ差出シタル上ハ肝煎ニ於テ會所株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ

毎年ノ定式集會前半ケ月間株式ノ賣買授受ヲ停止シ株式帳ノ書改メヲ爲サハルヘシ株主ノ内死去或ハ分散ニ依リ其株式ヲ讓受ク可キ人々ニハ肝煎ノ要用トスル証據ヲ差出

サシメ然ル後之ヲ株主トシテ株主帳ヲ書改ムヘシ  
右ノ手續ヲ爲サスシテ賣買授受シタル株券ハ會所ニ於テ其効ナキ者ト看做スヘシ

第十二條 當會所ニ於テ自ラ米賣買取引ヲ爲シ又ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買トナリ之ニ從事スル者ヲ以テ總テ仲買人ト稱スヘシ但他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買ヲナシタルトハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

又當會所ノ株主タルモノハ會所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ肝煎ノ承認ヲ經テ仲買人トナルヲ得ヘシ

第十二條 內務省  
第十六號 米穀  
賣買法 第五  
項ヲ追  
加ス

總テ仲買人タルコトヲ欲スルモノハ毎年何月何日ヨリ何月何日マテニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出スヘシ此書面ニハ姓名住所年齢商業等ヲ記シテ之レニ調印シ且ツ二名以上証人ノ連印ヲ要スヘシ尤株主タル者ハ別段証人ヲ要スルニ及ハサルベシ

此仲買人タル者ハ營業上ニ於テ米商會所條例此定款申合規則ヲ遵守ス可キ旨ノ約定ヲ確實ニシ及ヒ違約ノ償辦ニ供用スヘキ爲メ身元證據金トシテ金何百圓ヲ當會所ニ差出シ置クヘシ但シ此身元金ハ會所ニ於テ他ニ使用スル等ノコト無キカ故ニ利子等ヲ拂渡スコトナカ  
ルヘシ當會所肝煎ノ承認ヲ經且ツ身元金ヲ差出シ會所ノ仲買人ト成リタル上ハ會所ニ於テハ之ヲ社中ノ人ト視做スヘシ

仲買人入社中ノ期限ハ一ケ年ト定メ毎年何月幾日(幾度ニテモ其月日ヲ定メ記載スヘシ)ヲ以テ撰任ノ期トナスヘシ但シ期限中自己ノ都合ニヨリ退社セント欲スルハ其旨趣ヲ書面ニテ肝煎ニ申出ツヘシ肝煎ハ右ノ書面ヲ少クモ十日間以上取引場ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ハ其者ノ退社ヲ許シ身元金ヲ返附シ証人ノ責任ヲ解クヘシ

仲買人若會所又ハ社中ノ人ニ對シ不正不實ノ所業アルヲ以テ其者ヲ除名スヘキ場合ニ至テハ肝煎ノ衆議ニ依リ其証人ヲシテ三十圓以下ノ過怠金ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第十三條 仲買人タル者其名代トシテ手代ヲ會所ニ出サント欲スルハ書面ニテ其者ノ姓

名住所并ニ丁年ナルコト及ヒ委任ノ權限等ヲ詳細書面ニ認メ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得テ後會所ニ出スコトヲ得ヘシ但此書面ハ少クモ十日間以上取引場ニ張出シ置キ異存ノモノナキコトヲ認メタル上ニアラサレハ手代ヲ會所ニ出スコトヲ許サヘルヘシ

手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ會所ニ揭示シ其主人ヨリ別ニ報告ナキ時間ハ其手代ノ取結ヒタル約定ハ都テ主人ノ引受タルヘシ

主人若シ其代人委任ノ權ヲ解クハ速カニ之ヲ肝煎ニ報知スヘシ然ル上ハ肝煎ニ於テ其趣ヲ會所ニ揭示シ其手代ノ姓名ヲ取消スヘシ

手代若シ違約ヲ爲スニ其主人ニ於テ違約ノ償辦ヲナシタルハ其手代ハ會所ニ於テ取引ヲナスヲ禁シ主人ハ尙ホ仲買人タルヲ得ルト雖モ若シ主人違約人トナリ社中ヲ除名セラ  
ルハ其手代タルモノモ會所ノ出入ヲ禁スルハ勿論タルヘシ

第十四條 當會所營業ノ總勘定ハ毎年一月七月兩度ト定ム可シ

當會所營業ノ總勘定ヲ爲シ税金并ニ社費ヲ引去リ純益金一ケ年一割以上ノ利子ニ當ルハ其以上ノ幾分ヲ以テ準備金トナシ積置クヘシ但準備金ハ會所非常ノ災害ニテ損失ヲ受クルカ或ハ其他ノ事故ニ依リ株主ノ集議ニ於テ適當トスルニアラザレハ之ヲ使用スヘカ  
ラス

右準備金ハ時宜ニヨリ肝煎ノ決議ヲ以テ公債証書又ハ不動産等ニ替置クコトヲ得ヘシ

利益金ノ内準備金ヲ引去タル株高ハ之ヲ株高ニ配當シテ各株主ニ割渡スヘシ當會所ニ損失アリテ資本金不足スルキハ頭取肝煎ヨリ其事情計算ヲ株主一同ニ公告シソノ後ニ生スル處ノ利益ハ其資本高ノ不足ヲ補ヒ得ルマテノ間配當ヲ差止ム可シ

第十五條 當會所ノ株主及ヒ役員等社中ノ諸規則ニ悖戻シ又ハ不信ノ所業ヲナス可カラズ若シ之ニ違フ者アルキハ株主或ハ肝煎ノ集議ヲ以テ其輕重ニ從ヒ相當ノ過怠金ヲ付ス可シ又其事柄ニヨリテハ公裁ヲ仰クイアルヘシ

第十六條 此定款ノケ條ハ株主ノ議定ニ依リテハ何時ニテモ改正加除スルヲ得ヘシト雖モ必官ノ許可ヲ得テ施行ス可シ

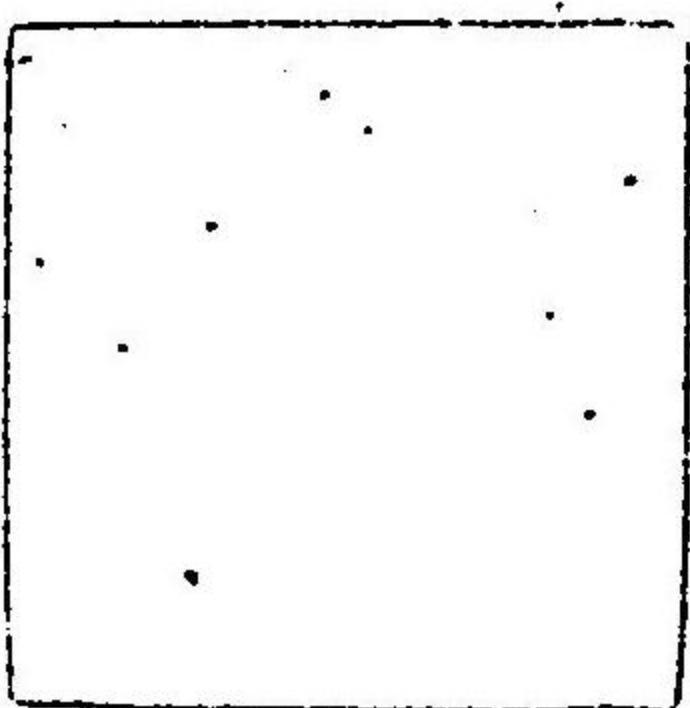
右ノ條々ヲ取極メタル證據トシテ各姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號月日

株主姓名印

内務省

鈐印位置



第四號 申合規則書例

何々米商會所申合規則

此米商會所ハ明治九年八月太政官第百五號公布條例ノ旨趣ヲ遵奉シ賣買上尙ホ緊要ノ條件ニ於テ總員確守ス可キ規程ヲ議定シタルモノ左ノ如シ

第一條 當會所ノ賣買ハ何地米何石建ノ事

但取組ハ一石ノ直段ヲ相唱フヘシ

第二條 約定ノ期限ハ三ヶ月ヲ越ス可カラサル事

但取引ノ期月ハ何々月又ハ毎月何々日ト定ムヘシ

第三條 賣買米ハ本場限り帳入トシテ本場後ノ賣買ハ翌日ノ本場ニテ帳入ト定ムヘキ事

但シ定期賣買ノ帳入米ハ本日本場賣買揚札ノ平均直段ヲ以テ定價トナシ又現場取引勘

定ハ相對取組直段ヲ以テスヘシ

第四條 約定證據金ハ之ヲ四様ニ分チ時價ノ昂低ニヨリ増減スヘキモノト雖モ當分ノ内左ノ通り相定メ其出納時間ハ毎日午前十時限リタルヘキ事

第一 本證據金建米何石ニ付何圓

是ハ本日賣買高滿何千石マテハ其割合ニ從ヒ翌日ノ出納時限迄ニ入金スヘキ事

第二 半證據金同上何圓

是ハ本場并ニ二番商ヒニテ何千石以上ノ賣買ニ及フモノ即刻記載ノ割合金ヲ差入シ殘

リ金高ハ翌日定刻ニ入金スヘキ事

第三 追証據金同上何圓

是ハ賣買米約定ノ定價ヨリ一石ニ付何十錢又ハ前件本証據金ノ定額ヨリ何割ノ高低アル時ハ幾度ニテモ追証據金トシテ翌日定刻迄ニ差入レ且ツ又右以外ノ高低何錢何割ニ至ルモハ即日入金スヘキ事

第四 増証據金同上何圓

是ハ約定中何日間休業ノ場合及ヒ取引ノ期月何日前ニ至リテ雙方之ヲ入金スヘシ但シ本日ヨリノ賣買ハ右ニ準シ増証據金ヲ加ヘテ差入レヘキ事

第五條 諸証據金ノ預リ証ハ各銘ノ通帳又ハ切手ヲ用フルト定メ印稅規則ニ遵ヒ印紙貼付致スヘキ事

但シ通帳及ヒ切手ニ記載シタル金穀ハ一切他ニ使用スルヲ許サ、ルヘシ

第六條 約定期限中其賣買米ヲ買戻シ又ハ賣渡シヲ要スルモノハ雙方示談ノ上之ヲ肝煎ニ申立賣買受授ノ手續ヲ經テ其決算ヲ乞フヘキ事

但シ非常ノ亂高下或ハ不穩當ノ所業ト見認ルモハ肝煎ニ於テ其申立ヲ採用セサルコトモアルヘシ

第七條 取引期日ニ至リテハ午後第何時限リ賣主ハ銘柄藏所付又買主ハ代價ノ全部又ハ

何部ヲ會所ニ差出ヘキ事

但シ本條部金ハ本場立テ留リヨリ前ニ繰戻シ何ケ日ノ本場直段ヲ合セ之ヲ平均シテ其代價ノ計算ヲ立ツヘシ

第八條 受渡米ハ賣買主并ニ掛リ役員立合ノ上之ヲ檢査シテ故障ナキモハ立合封印ヲ爲シ其藏出証書ヲ買方ヘ又其何部代金ヲ賣方ニ相渡スヘキ事

但シ受渡中非常天災ノ損毛又藏敷等ハ兩持トナシ又何日以外ハ買方ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第九條 買方二名以上ニシテ賣渡米各種ナルモハ其銘柄ヲ圖引ニシテ受取ルヘシ若シ又大石數ナレハ圖引ヲ以テ藏出ノ順序ヲ定メ置キ雨天ノ外日々早朝ヨリ受渡ヲ爲スヘキ事

但シ受渡ノ節ハ會所附屬ノ小揚ヲ立合ヒ枳廻引枳等都テ市中ノ通例ニ依テ取扱ハシム

第十條 代米ノ受渡ハ都テ會所ニ於テ定メタル格附ニ從フヘシ又受渡ノ藏所ハ會所附屬ノ外某地一間其他何橋ヨリ何川マテ枝川ハ何河岸通り何町以內ノ藏々ヲ相用フヘキ事

第十一條 受渡米檢査ノ場合ニ於テ若シ不足アレハ之ヲ補ハシメタル上米何石ニ付金何圓ノ割合ヲ以テ不足セシ俵數ノ過意金ヲ出サシメ買方ニ相渡スヘキ事

第十二條 不熟風災腐化等ノ惡米其他渡方ニナラザル程ノ米症ナル時ノ代米ハ都テ何日限

リ差出ス可シ若シ之ヲ怠ル時ハ何名ニ付何圓宛ノ過怠金ヲ差出サシメ之ヲ買方へ渡スヘキ事

第十三條 銘柄違ヒ并ニ藏所違ヒハ米何石ニ付キ金何圓宛ノ過怠金ヲ買方ニ渡サシムヘキ事  
第十四條 賣買主ニ於テ若シ定規ノ証據金ヲ怠リ又ハ銘柄藏附及ヒ何部金等ヲ定刻ニ差出サスシテ違約人トナリタル時賣方ノ違約ナレハ買方ニ於テ其石高ヲ市場ニ買求メ又買方ノ違約ナレハ賣方ニ於テ之ヲ市場ニ賣拂ヒ其不足金並ニソレカ爲メ蒙リタル損失ヲ合セ其者ノ証據金身元金ヲ以テ之ニ償ハシメ尙ホ相手方ヲ満足セシムル能ハサル時ハ公裁ヲ仰グヘキ事

第十五條 前條ノ處分ニ及フモノハ直チニ之ヲ除名シ若其身元金アルトハ之ヲ沒收スヘキ事  
第十六條 會所ノ手數料ハ賣買米何石ニ付當分左ノ通り相定メ又仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スヘシト雖モ凡ソ手數料何分ノ割ニ踰ユ可カラサル事  
定期取引手數料何十錢  
現場取引手數料何錢

第十七條 毎日營業ノ時間ハ午前第何時ヨリ何時迄ヲ本場立會ト定メ午後第何時ヨリ何時迄ニ番商ヒヲ執行致スヘキ事  
但シ金方出納ノ爲メ延縮スルハ此限ニアラサル可シ

第十八條 御國祭其他毎月何ノ日休業タルヘキ事

但シ休業日ノ出納ハ次ノ立會定刻何時限タルヘシ

第十九條 此申合規則ニ於テ實際上若シ不都合有之節ハ肝煎ノ衆議ヲ以テ之ヲ補除改正シ其都度官ノ許可ヲ得テ施行スヘキ事

右取極メタル申合規則ハ會所營業上何レモ確守スヘキ證據トシテ株主並仲買一同記名調印スヘキモノナリ

年號月日

株主姓名印  
仲買姓名印

第五號 開業免狀ノ雛形

開業免狀

何々米商會所

右差出シタル創立證書ニ據リ此會所ハ明治何年何月太政官第何號布告米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉履行スヘキコト分明ナルニ付今此開業免狀ヲ下付シ自今其業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

年號月日

内務卿

切押

第十三類 米穀油賣買

第六號 實際報告ノ書例

明治一十年一月中實際報告

原本ノ朱書ハ〇印ヲ以テ區分ス

何々米商會所

總計	以下至	五日	四日	三日	二日	一日	現場取 引米	平均一 石代	本月限	平均一 石代	一ヶ月限	平均一 石代	三ヶ月限	平均一 石代	總計米
	〇〇〇〇〇〇 百十石千	[無シ]	〃 〃 〃	[休業]	〃 〃 〃	〇〇〇〇〇〇 十石千	〇〇〇〇〇〇 十圓十錢	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇 百十石千	

右違算無之候事

年號月日

第七號 計算表書例

明治一十年(前後)半季計算表

頭取姓名印

檢査掛姓名印

支配人姓名印

何々米商會所

總計	何々	株備金ヨリ繰替高	物品賣拂代	沒收金	過怠金	利息金	手数料	入額	何々	稅金	役員俸金	不時賞與	社費	建築修繕或ハ地料	繰替金拂入高	何々	總計	何々	出額	何々
				々	々	々	々				々	々	々	々	々	々				

第十三類 米穀油賣買

純益金若干

差

引

内 金若干 株主へ配當スベキ分(但一株ニ付金何圓何錢)  
 金若干 積立準備へ組入ル可キ分  
 別途計算

資本	株金若干	積立準備金若干	銀行其他へ預高
金若干	現金若干 公債証券々々	金若干 現金若干 公債証券々々	地方廳或ハ銀行へ預高
金々々	々々	金々々	建築費其他繰替高
身元金若干	金若干	金々々	權中現在高
金若千	公債証券	商會所々有物	地
金々々	現	物	所
金々々	金	々々	若千坪
右ノ通達算無之候事	年號月日	頭取姓名印 検査掛姓名印 出納掛々々	

第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例  
 株主仲買人姓名表

何々米商會所

株數	属	籍	住	所	姓	名
一 株 此金一 百圓	府使 縣 華士族 平民		使府 縣第一 大區小 區一町 村一番 地居住 寄置		何	誰
合株數 此金一 萬圓					總計株主	幾人
身元金 一 百圓					總計仲買	幾人
合金何 千圓						

右ノ通達算無之候事  
 年號月日

頭取姓名印  
 肝煎姓名印

第九號 役員上任報告ノ書例

何々米商會所役員印鑑御届  
年號 年 月 何、誰儀ハ當商會所ノ頭取副頭取  
配ニ撰ハレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

何々米商會所  
年號月日  
頭取姓名印

(別紙)用紙 厚紙豎五寸幅一寸五分

何々米商會所何役

籍

何ノ誰

年號何年何ヶ月

宿所

印鑑印

第一千六百七十 明治十二年三月四日大藏省布達

甲第十六號

明治九年<sup>八</sup>内務省甲第二十九號布達米商會所成規中左ノ件々追加候條此旨布達候事  
成規第二號書例創立証書第六條ニ左ノ事項ヲ追加シ從前六條ノ件ヲ七條トス

當會所ノ株主ハ其責任ヲ無限(或ハ保証有限)ト定ムヘシ故ニ若シ會所ノ鎖店又ハ非常ノ  
損害ヲ受ケタル場合ニ於テハ其負債及ヒ右ニ關シタル入費ヲ株高ニ割付ケ(保証有限ナレハ  
現在所持ノ株高  
幾倍)之ヲ負擔シ更ニ出金辨償スヘシ

同第三號會所定款書例第十二條中左ノ五項ヲ追加ス

仲買人ハ同社中ノ投票ヲ以テ二百圓以上ノ身元金ヲ差入タルモノ、内五名以上(乃至  
十名)ノ  
委員ヲ撰任シ會所肝煎ノ集會ニ參席シテ賣買上諸規則ノ議事ニ與ルコトヲ得ヘシ

仲買人ハ其身元金ノ差入高ニ應シ同社中ニ對シテ發言投票ハ勿論賣買ノ權利ニ於テ其差  
等ヲ有スルモノトス

仲買人ノ入社ハ會所營業ノ都合(例ハ本會金三萬圓ナレハ仲買人百名迄ヲ程度)  
トナシ其以上二萬圓ヲ増ス毎三十名ヲ加フ割合)ニ依リ其人員ヲ  
幾千名ト定メ豫テ右制限ニ超過セサルヲ要スヘシ

但從前超過スルモノ即今減員ニ不及ト雖モ追テ右制限ニ比準候迄新ニ入社ヲ許サ、ル  
ヘシ

第十三類 米穀油賣買



仲買人入社ノ申込ニ當リ一旦破産シタルモノ或ハ身代限りノ處分ヲ受ケシ者其負債ノ義務ヲ免レタル實証ヲ認メサレハ入社スルヲ許サス又該會所及ヒ其他ノ會社ニ於テ違約除名ノ處分ヲ受ケタル者ハ其退社ノ日ヨリ滿二ケ年以上ヲ經ルニ非レハ入社ハ勿論他ノ手代ト爲リ會所ニ出入シ營業スルヲ許サハルヘシ

仲買人ハ各自正確ナル手帳ヲ所持シ日々取組タル所ノ石數代價及ヒ賣買本人又ハ注文向キノ姓名住所並ニ取引始末等ヲ詳記シ而シテ不時檢査ノ官員又ハ特ニ會所ノ命ヲ奉シタル役員ノ要求ニ依リテハ何時モ之ヲ差出スヘシ若シ其要求ヲ拒ミ又ハ之ヲ所持セサルカ或ハ其記入ヲ怠ルカ又ハ記入ニ不正等アルキハ都テ違約人ヲ以テ之ヲ論シ且其事柄ニ依リ公裁ニ付スヘシ

第一千六百七十一 明治十二年四月十六日大藏省布達

甲第四拾七號

今般第十九號公布ヲ以テ米商會所條例更正相成候ニ付テハ明治九年(八月)内務省甲第二十九號布達米商會所成規中牴觸ノ廉ハ自今消滅ノ儀ト可相心得此旨布達候事

第一千六百七十二 明治九年九月十一日内務省達

乙第百號

本年<sup>八</sup>太政官<sup>第百五號</sup>公布米商會所條例ニ照準シ會所創立候ニ付テハ條例第三條第三節及當省

府 縣

本年甲第二十九號布達成規第二條第一節二節ノ手續ヲ以テ資本金總高ノ内三分二ニ當ル公債證書又ハ現金ヲ地方廳或ハ國立銀行ニ預ケ候等ニ付現品差出シ候ハ、其種類相當ノ請取證書ヲ與ヘ地方廳ハ長官並ニ其掛リノモノ銀行ハ頭取支配人勘定方等立會封印シ容易ニ之レヲ轉動使用スルヲ得サラシムルノ手續ヲ爲シ置クヘシ且ツ右預リ現金ハ別ニ利子等ヲ拂遣スニ不及候尤モ別段ノ約定ニ據リ預リタルキハソノ方法約定ノ旨趣ヲ詳記シ當省ヘ可届出候此旨相達候事

但シ銀行ヘハソノ所在管轄廳ニ於テ可相達事

第一千六百七十二 明治十一年九月二十日大藏省達

番外

東京府 京都府 大坂府 兵庫縣 愛知縣

三重縣 滋賀縣 岡山縣 愛媛縣 高知縣

石川縣 新潟縣 山口縣

其<sup>府</sup>縣下米商會所仲買人ノ者尋常ノ退社ヲ除クノ外事故有之過怠金ヲ徵收シ或ハ身元金ヲ沒收シテ退社候者有之候節ハ其頭末ヲ詳記シ時々届出候義ト可相心得此旨相達候事

第一千六百七十四 明治十一年一月十七日大藏省達

乙第二號

府 縣

米商會所並同仲買人共ニ於テ支社分店又ハ出張所等取設ケ其業務取扱候者モ有之哉ノ趣右

決シテ不相成等ニ候條若シ右條ノ向有之候ハ、差止可申候此旨相達候事

〔第一千六百七十五〕 明治十三年三月十三日大藏省布達

甲第三拾貳號

同年同月廿二日同省甲三拾八號布達ヲ以テ本文中(他ノ地方へ)ノ五字ヲ删除ス

米穀限月賣買ノ儀ハ明治九年第五百五號公布ノ趣有之該條例ニ遵ヒ會所ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月并ニ現場限月賣買ヨリ起ル現場ヲ云賣買取引ハ米商會所内ニ限リ差許サレ候儀ニテ他ノ地方へ會所ノ支社出張所ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論渾テ會所外ニ於テハ仲買人ヨリヒ其業務取扱候儀一切不相成筋ニ候條心得違無之樣可致此旨布達候事

〔第一千六百七十六〕 明治十三年三月廿二日大藏省布達

甲第三拾八號

明治十三年三月當省甲第三拾貳號布達中(他ノ地方へ)ノ五字删除候條此旨布達候事

〔第一千六百七十七〕 明治十三年四月十五日布告

第二十一號

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内タリヒ竊ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場定規ヨリ起リタル現場ヲ云フ賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百

圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ

犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタル者ハ其罪ヲ問ハス

右布告候事

〔第一千六百七十八〕 明治十三年四月十六日大藏省達

乙第三拾八號

府 縣

今般第廿壹號公布ノ趣モ有之候ニ付テハ取締向尙一層嚴重ニ可相立因テハ金銀米穀賣買取引ヲ爲ス業体ノ者并ニ兩替店爲替店又ハ穀物間屋ノ類ヘハ時々主務ノ官吏ヲ派遣シ篤ト爲相改自然右公布ニ違反候者ハ速ニ取糾シ裁判所へ求刑可致此旨相達候事

### 牛馬賣買

〔第一千六百七十九〕 明治五年十一月四日布告

第三百二十號

諸 省 府 縣

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相定候條各管内共區々ノ取計無之樣可致候事

別紙

牛馬賣買渡世ノ者免許税ノ儀昨辛未十二月相達候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ所置可致事

壬申十月

大藏省

規則

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬賣買綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但賣買綱ハ牛馬共七匹ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内ニ枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札願受候後事故アリテ數日ヲ不歷休業致シ候共一ケ年分ノ税上納可致事但休業ノ者ハ毎年二月ヲ期シ免許鑑札返納可致事

第三條 免許鑑札萬一燒失流失盜難等ニテ失ヒ候モ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ケ年税金一圓上納可致事

但右税金ハ毎年二月中各府縣廳へ取立三月中迄ニ當省へ上納可致候尤二月以後免許候

此條七年四十  
五號布告ヲ以  
テ改定ス

此條但書八年  
百十五號布告  
ヲ以テ改正ス

者ハ其都度取立直クニ上納可致候且明細帳ノ儀ハ各管内一ケ年取束十二月中迄ニ差出

可申事

第五條 免許鑑札燒印並押切判ハ雛形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共へ相渡可申事

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省へ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許税十倍ノ科料可申付事

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二褒美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

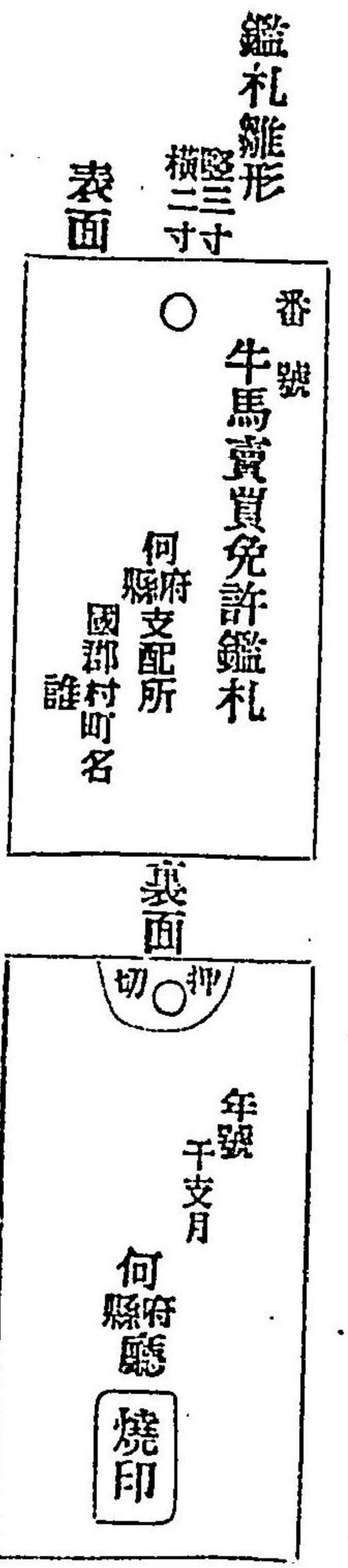
第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

右之通規則相定候事

壬申十月

大藏省

七年三十一號  
布告ヲ以テ第  
九條ヲ追加ス



第一千六百八十  
明治七年四月二十日布告  
第四十五號

明治五年壬申<sup>十一月</sup>布告牛馬賣買規則中第二條左ノ通改定候條此旨布告候事  
一 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

第一千六百八十一  
明治七年十二月三日布告  
第三百三十一號

明治五年壬申<sup>十一月</sup>第三百三十號布告牛馬賣買規則第九條左ノ通追加候條此旨布告候事  
第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事  
但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

第一千六百八十二  
明治八年七月七日布告  
第三百十五號

明治五年<sup>十一月</sup>第三百二十號布告牛馬賣買規則中第四條但書左ノ通改正候條來明治九年ヨリ施行可致此旨布告候事  
牛馬賣買規則

第四條 免許鑑札云々  
但右稅金ハ毎年二月八月兩度ニ半額宛各管廳へ取立租稅寮へ上納可致尤新規免許ノ者ハ其都度半額直ニ取立上納可致候事

煙草

第一千六百八十三  
明治八年二月廿日布告  
第二十八號

煙草ノ儀來ル明治九年一月一日ヨリ課稅可致候條此旨布告候事  
但稅則ノ儀ハ追テ可及布告事

第一千六百八十四  
明治八年十月四日布告  
第三百五十號

煙草課税ノ儀本年第二十八號ヲ以テ布告ニ及ヒ置候處右稅則別紙ノ通相定來明治九年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別紙

煙草稅則

第一則 煙草營業稅

第一條 煙草賣買營業ノ者ハ其管廳へ申出營業鑑札ヲ受ケ年々左ノ通稅納致スヘキ事

但煙草耕作人ニシテ自作ノ煙草ヲ煙草賣買營業人へ賣渡ス而已ニテ煙草ヲ請賣セサル者並ニ葉煙草ノ儘取扱ヒ候者ハ此限ニ非ス

煙草卸賣營業稅 一ケ年 金拾圓

煙草小賣營業稅 全 金五圓

但卸賣トハ煙草商人へ賣渡スヲ云フ又小賣トハ自用自己ノ所用ニ供シ賣ノ人へ賣渡スヲ云フ

第二條 卸賣營業鑑札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營業鑑札願受ルニ及ハスト雖モ小賣營業鑑札ヲ受ケ卸賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

第三條 最初營業鑑札下渡候節爲手数料金二拾錢相納ムヘキ事

第四條 營業鑑札ヲ受ケタル煙草商人へハ仕入鑑札其管廳ヨリ相渡候條煙草買入ノ節ハ必

同年百六十五號布告ヲ以テ此條但書中并ニ葉煙草ノ儘取扱ヒ候者ノ取テ以テ同但書中煙草賣買營業人へノ八

ス相携エ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツ、相納ムヘキ事

但仕入鑑札ハ一戸一枚ニ限り候儀ニ無之素ヨリ買入ノ節必携ノ品ニ付何枚ニテモ入用丈ケ願ニ依テ相渡スヘキ事

第五條 營業稅上納ノ儀八年々兩度ニ區別シ半ケ年分宛區戶長ニ取集メ其管廳へ可相納事

但其年前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限其管廳へ可相納事

第六條 新規營業免許ノ者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分營業稅納廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事

但廢業ノ者ハ其節直ニ營業鑑札仕入鑑札ニ返納致スヘキ事

第七條 營業鑑札若シ水火盜難過誤等ニテ失却候節ハ其旨管廳へ届出新規鑑札申受ヘキ事但爲手数料金二拾錢相納ムヘキ事

第八條 營業鑑札仕入鑑札ハ貸借決シテ不相成候事

但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳エ申立候ハ、鑑札引換可相渡尤前條手数料二拾錢相納ムヘキ事

第九條 卸賣營業ノ者ハ煙草卸賣所ト書記シ又小賣營業ノ者ハ煙草小賣所ト書記シタル看板へ免許鑑札ノ番號書加エ戶外ニ掲クヘキ事

但卸賣小賣ヲ兼候者ハ煙草(卸小)賣所ト書記シ看板ヲ掲クヘキ事

同年百六十五號布告ヲ以テ此條但書ヲ改

九年五十九號  
布告ヲ以テ  
十條ヲ追加ス

第二則 製造煙草印稅

第一條 製造煙草ハ 玉作箱詰紙包  
束作紙等 各種ノ大小斤目ニ不拘自用ノ人ニ賣渡ス節ハ總テ其代價ニ  
從ヒ煙草印紙貼用ノ上賣出スヘキ事

但葉煙草ハ總テ印紙相用ユルニ及ハザル事

第二條 製造煙草印紙種類并定價左ノ通候事

長印紙 二十五切  
全紙一枚 定價貳錢五厘

印紙 全 五厘

印紙 全 壹錢

印紙 全 五錢

印紙 全 拾錢

第三條 製造煙草印稅割合左ノ通

煙草代價  
五錢未滿 印稅一厘 但長  
印紙

全五錢以上  
十錢未滿 印稅五厘

全十錢以上  
二十錢未滿 印稅壹錢

全二十錢以上  
三十錢未滿 印稅二錢

全三十錢以上  
四十錢未滿 印稅三錢

此條同年二百  
五號布告ヲ以  
テ改正ス

右以上總テ之ニ準シ印稅增加スヘシ

第四條 煙草印紙貼用方略圖ノ如ク貼用致スヘキ事

第五條 煙草印紙ハ煙草印紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外  
ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第六條 仕入鑑札所持ノ煙草商人ニ賣渡ス製造煙草ニ限リ印紙貼用ニ及ハス其仕入鑑札ヲ  
賣証トシテ賣渡スヘシ尤鑑札所持致サ、ル者エハ無印紙ノ製造煙草決シテ賣渡不相成事

第三則 賣買罰例

第一條 卸賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ヶ年營業稅ノ七倍科料可申付事

第二條 卸賣營業鑑札借受ケ營業致候者ハ前條同様ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上  
ケ一ヶ年營業稅ノ五倍科料可申付事

第三條 小賣營業鑑札ヲ受ケス營業致候者ハ一ヶ年營業稅ノ五倍科料可申付事

第四條 小賣營業鑑札ヲ借受營業致候者ハ前條同様ノ科料申付ヘシ貸渡候者ハ其鑑札取上  
ケ一ヶ年營業稅ノ三倍科料可申付事

第五條 仕入鑑札所持致サスシテ無印紙製造煙草ヲ買受候歟又ハ右所持致サ、ル者ヘ無印  
紙製造煙草ヲ賣渡スモノハ各稅高ノ二十倍宛科料可申付事

第六條 仕入鑑札借受候者并貸渡候者ハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑑札料ノ十倍宛科料可申  
付事

付事

第七條 烟草印紙ヲ用ユヘキ製造烟草ニ印紙ヲ貼用セス自用ノ人ヘ賣出ス者ハ脱稅高ノ二  
十倍科料可申付事

第八條 烟草印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ減稅高ノ十倍科料可申付事

第九條 官許印紙賣捌所ノ外ニ於テ烟草印紙賣捌致ス者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル印紙代  
ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ印紙代ノ五十倍科料可申付事

第十條 一旦相用ヒタル烟草印紙ヲ剥取り再用スル者或ハ之ヲ賣買スル者ハ六拾圓以下ノ  
科料可申付事

第十一條 烟草印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下  
ノ科料可申付事

第十二條 前數條ニ掲グル處ノ犯人ヲ見届ケ訴出ル者アルトキ事實取糺ノ上相違ナキニ  
於テハ其賞トシテ其科料金ノ半高相與候事

烟草印紙貼用方略圖(同年二百五號布告ヲ以テ改正ニ付略ス)

第二百六十八號 明治八年十一月十日布告

第二百六十五號

本年十月第五十號布告烟草稅則第一則第一條中(並ニ葉烟草ノ儘取扱ヒ候者)ノ十二字ヲ刪

九年五十九號  
布告ヲ以テ第  
十三條ヲ追加  
ス

除シ同則第八條但書左ノ通改正候條此旨布告候事

○

但改名代換轉居等ノ節ハ其旨管廳ヘ申立候ハ、鑑札引換可相渡手数料トシテ營業鑑札ハ

金二十錢仕入鑑札ハ金拾錢相納ムヘキ事

第二百六十八號 明治八年十二月十四日布告

第二百九十四號

本年十月第五十號布告烟草稅則中掲載有之候製造烟草印紙左ノ見本ノ通候條此旨布告候事

(見本略之)

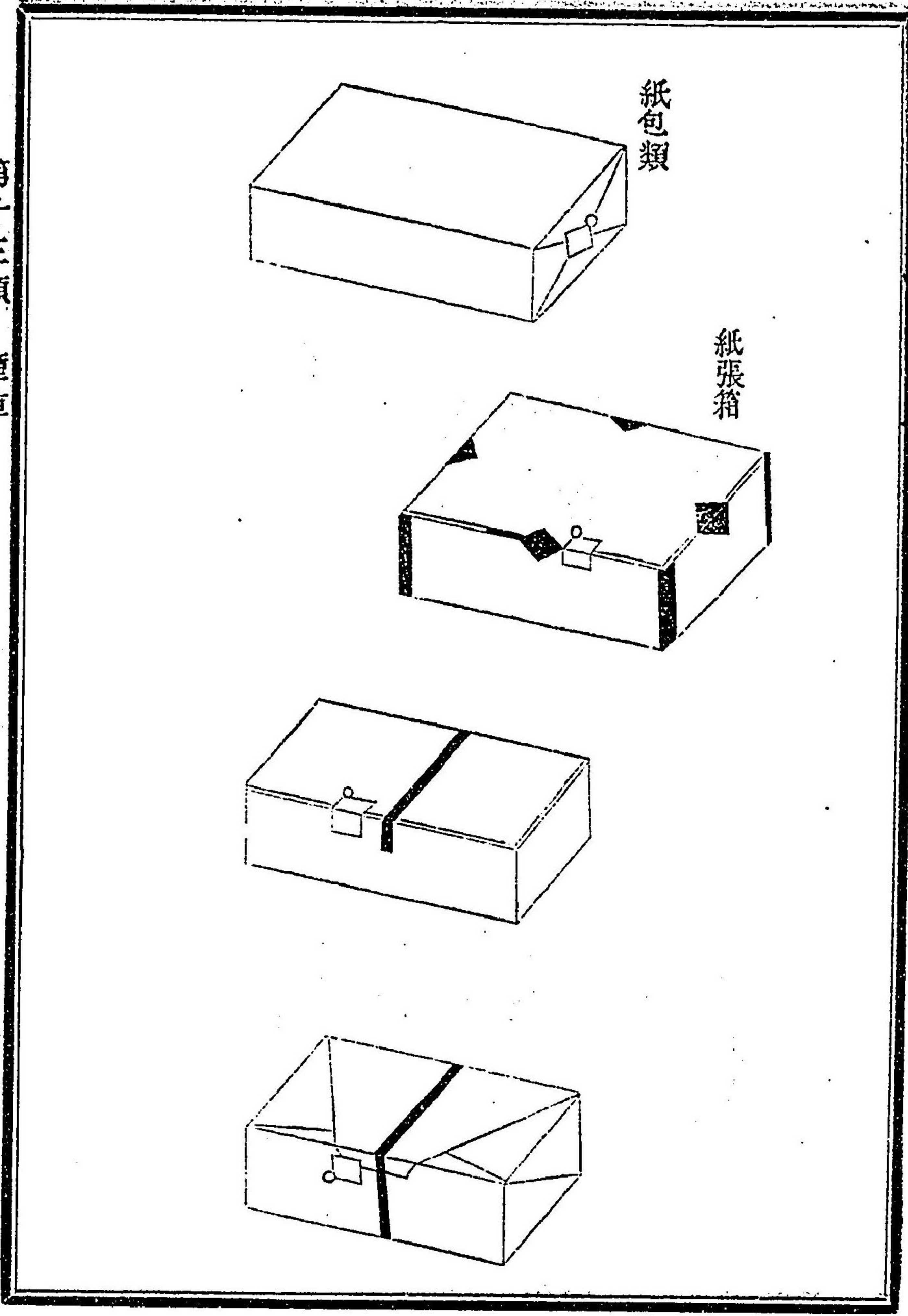
第二百六十八號 明治八年十二月廿八日布告

第二百五號

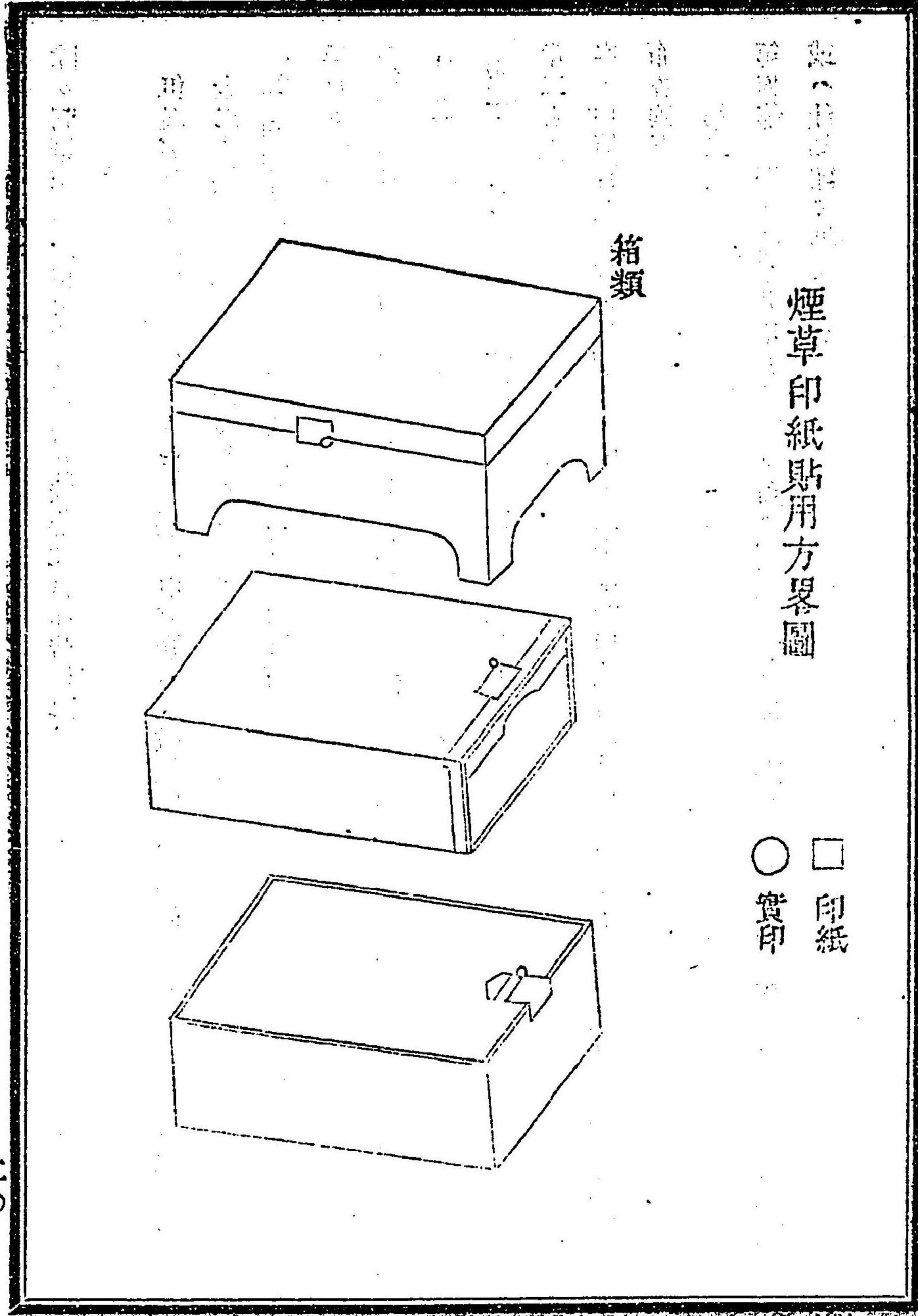
本年十月第五十號布告烟草稅則第二則中第四條并烟草印紙貼用方略圖左ノ通改正候條此旨  
布告候事

第二則

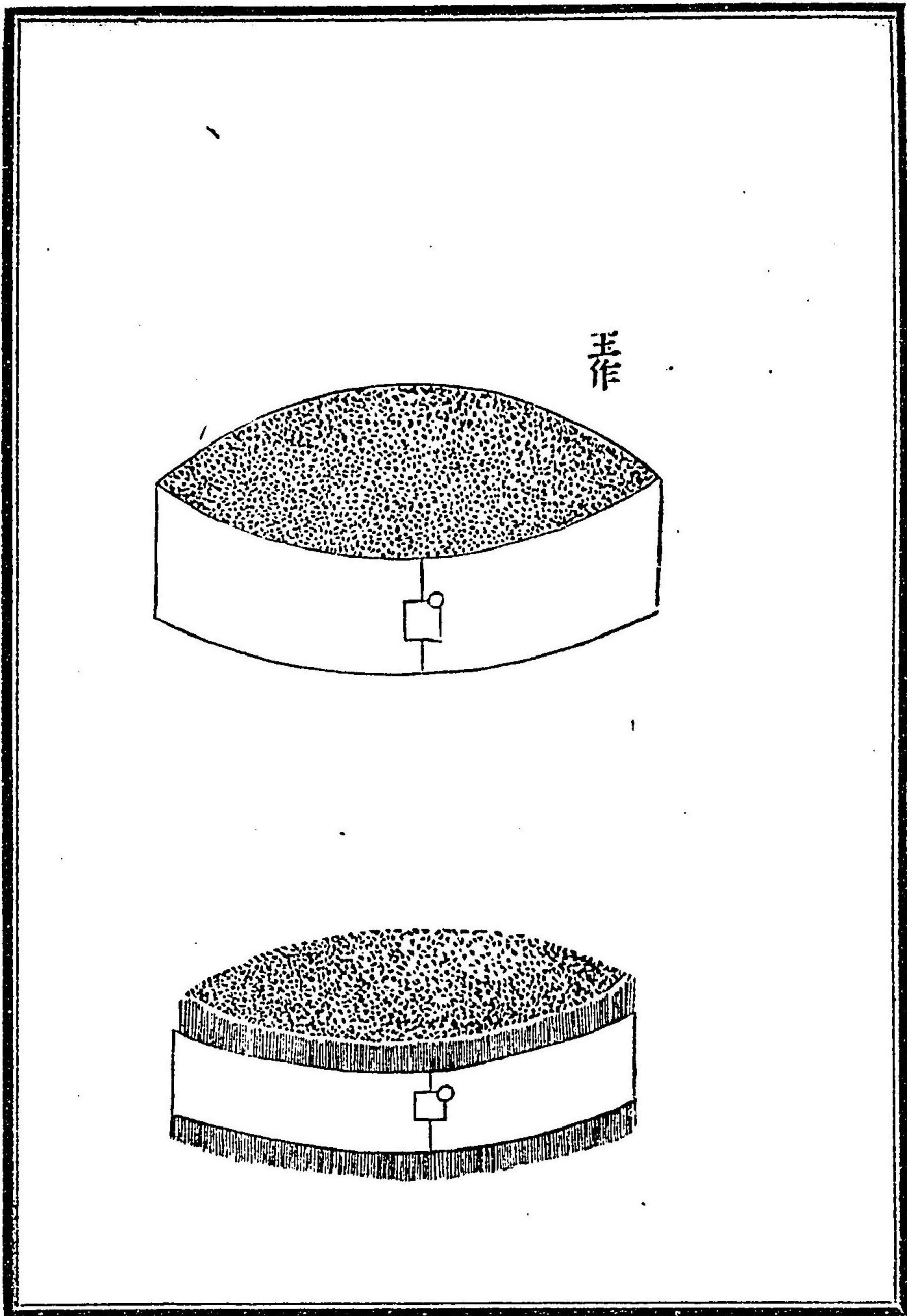
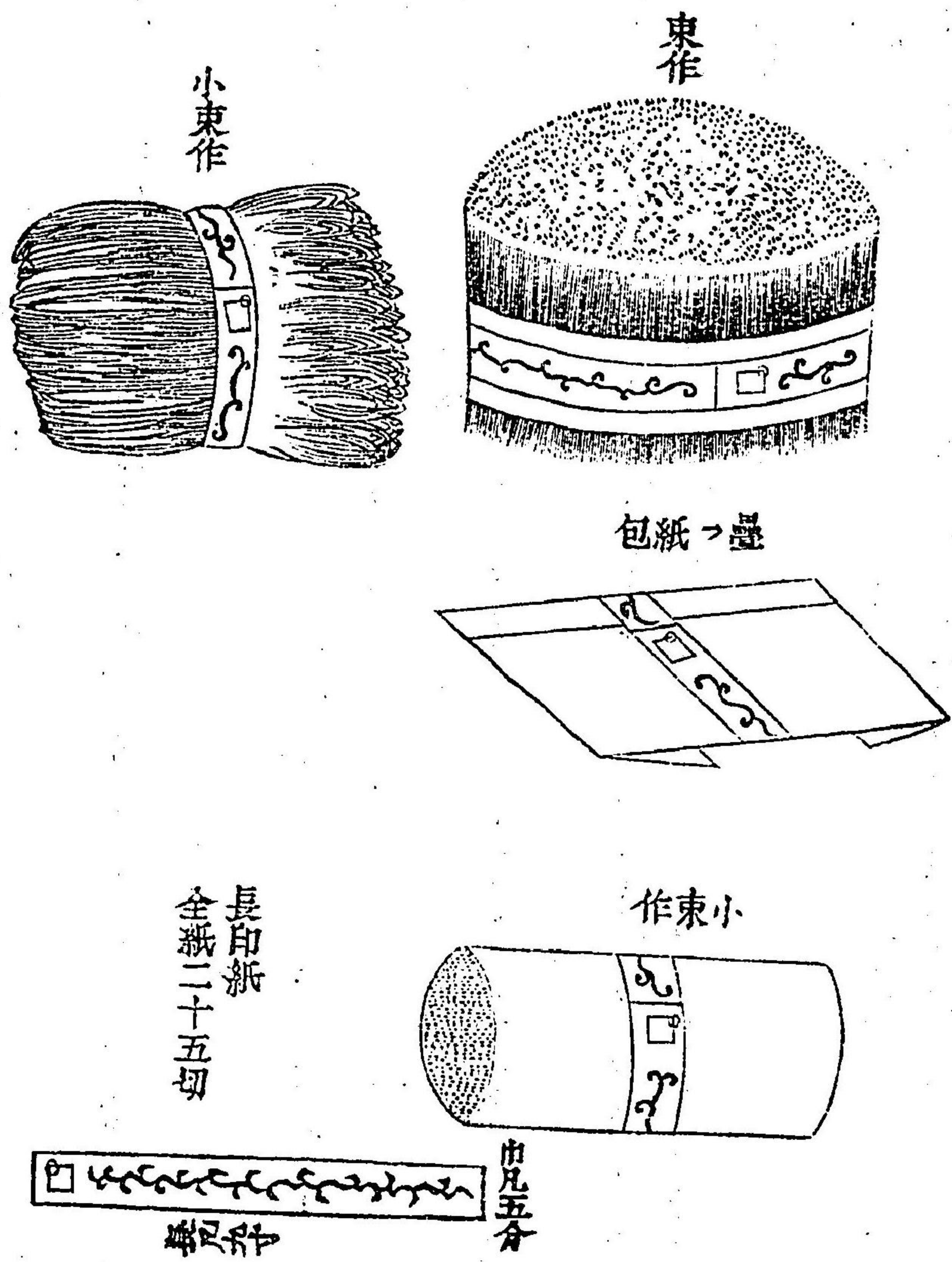
第四條 烟草印紙貼用方略圖ノ如ク賣主ニ於テ印紙貼用シ其全面ノ中心ヨリ端ニカケ實印  
或ハ仕切印ヲ押スヘシ



煙草印紙貼用方畧圖







第一千六百八十八 明治九年四月廿六日布告

第五十九號

明治八年十月第五十號布告煙草稅則第一則並ニ第三則へ左ノ通追加候條此旨布告候事

煙草稅則

第一則 煙草營業稅

第十條 營業鑑札ヲ受タル煙草商人へハ出賣ノ爲メ願ニ任セ出賣鑑札其管廳ヨリ相渡候條  
出賣ノ節ハ必ス相携ヘ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツ、相納ムヘシ尤右營業商人一名  
一枚ニ不限何枚ニテモ可相渡事

但遺失其外改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡候條手數料トシテ更ニ金拾錢相納ムヘシ

第二則 賞罰例

第十三條 出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受并貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十  
倍ノ料料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セスシテ出賣ヲナス者ハ鑑札料二十倍ノ料料可申付事

第一千六百八十九 明治十年二月三日布告

第十四號

一製造煙草ノ儀ハ自用ノ人へ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用ノ購求ニ宛  
テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ可置尤臨時官員派出調査候儀可有之事

一證券印稅規則中賣買品ニ關スル證書類ハ諸帳簿調査ノ振合ニ準シ官員巡廻調査候儀可有  
之事

右布告候事

第一千六百九十 明治十年二月七日布告

第十五號

明治八年十月第五十號布告煙草稅則第一則第一條但書中煙草賣買營業人へノ八字削除候條  
此旨布告候事

第一千六百九十一 明治八年十月廿八日大藏省達

乙第四百一十一號

今般第五百十號ヲ以煙草稅則御發令相成候ニ付テハ煙草印紙并賣營業免許鑑札ハ凡積ヲ  
以租稅寮ニ受取方可申出候事

一煙草仕入鑑札ハ第一號圖ノ如ク各廳ニ於テ木札ヲ製シ相渡シ可申候事

但本文鑑札失却スル歟又ハ改名代換等ニテ引換願出候ハ、更ニ鑑札相渡シ定規ノ鑑札  
料金拾錢收入致スヘキ事

一煙草印紙賣捌所ハ各管内ニ於テ一町又ハ一區等ニ一ヶ所或ハ二ヶ所適宜取設ケ本島ニ元體

第十三類 煙草

ナル者相撰ニ賣捌方可申付若シ望人無之場所ハ區戸長ノ中へ申付印紙買取方差支無之様取計可申事

一印紙代金後納ノ賣捌人ハ水火盜難其他何様ノ引負出來候共印紙代金相違ナク辨償スヘキ旨隨ナル證人爲相立戸長連印ノ証書取置可申事

但即金納ノ賣捌人ト雖モ戸長與印アル受書取置可申且非常ノ災害ニ罹リ印紙ヲ損失シ其事情憫諒スヘキモノハ其時々具狀處分ヲ乞ヘキ事

一賣捌人ノ中印紙代金即納ノモノハ申立ニ任セ印紙下ケ渡シ同後納ノモノハ一個一度ニ代金三百圓ヲ限リ印紙下ケ渡スヘキ事

一前同斷印紙代金即納ノモノハ印紙賣捌金高十分ノ一同後納ノモノハ同金高百分ノ四手數料トシテ支給スヘキ事

一賣捌人廢業ノ節ニ限リ賣捌殘ノ印紙ハ返納聞届不苦尤即金納ノ者ハ返納印紙代金全額返戻致シ最前支給ノ手數料ハ返上セル印紙相當更ニ返納可爲致事

但印紙摺損シ又ハ染付等有之モノハ返納不相成候事

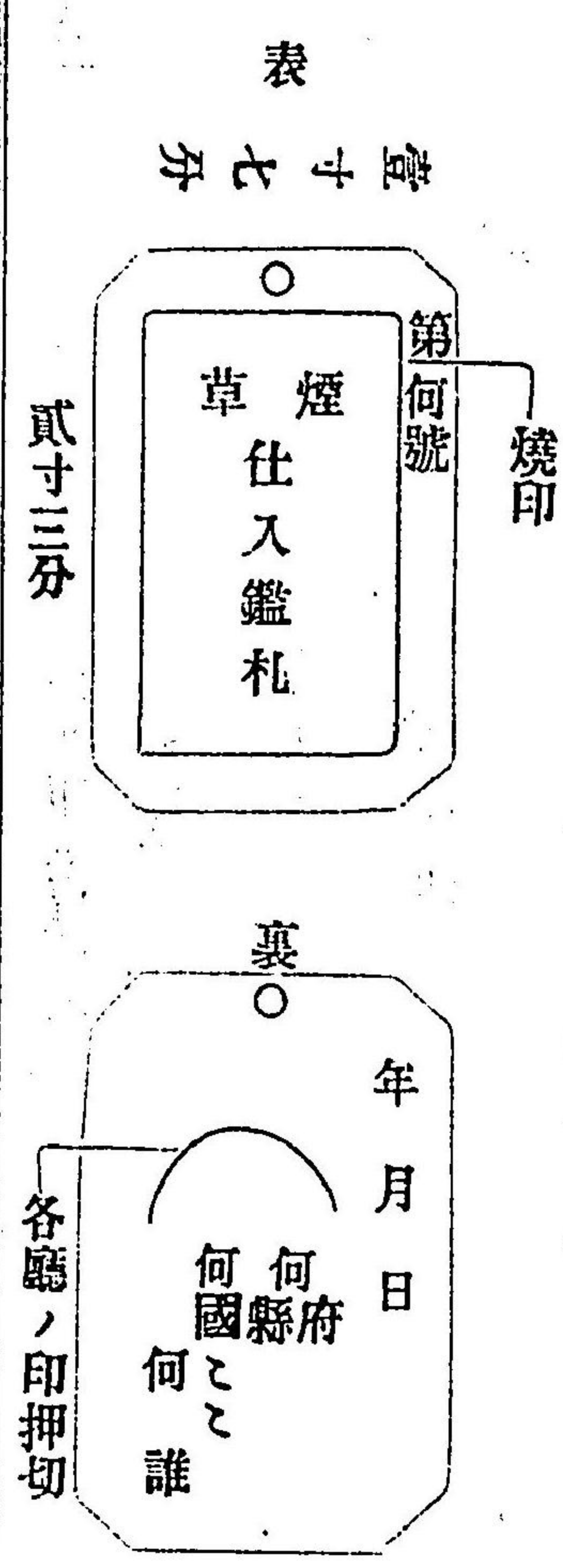
一賣捌所ノ看板ハ第二號圖ノ如ク相製シ可下渡事  
一賣捌人エ支給スヘキ印紙賣捌手數料ハ豫備金ヨリ繰換其都度支給シ追テ別途受取方可申出

一賣捌人ヨリ相納候煙草印紙稅并營業稅手數料等ハ毎月々未取纏メ其日ヨリ日數十五日以内ニ該地ヲ差立租稅寮ヘ相納年々十二月ヲ限リ第三號雛形ノ計算表ニ掲ケ七月十五日限リ該地ヲ差立租稅寮エ可差出事

一營業鑑札元拂ハ年々六月ヲ限リ第四號雛形ノ計算表ニ掲ケ七月十五日限該地ヲ差立租稅寮ヘ可差出事

但廢業並引換ノ舊鑑札ハ本文計算表ニ添へ租稅寮ヘ返納可致事  
右之通可相心得此旨相達候事

第壹號  
煙草仕入鑑札雛形



第十三類 煙草

第二號

煙草印紙賣捌所  
看板雛形  
貳尺九寸

裏面 何府 何縣 何國 何ノ誰	表面 第何號 府廳燒印 煙草印紙賣捌所
-----------------------------	------------------------------

三百二十八

第三號

明治何年 從何月 煙草印紙元拂并收稅計算表

差	拂				元		件名	類別	長印紙	五厘	壹錢	五錢	拾錢	收稅高合計
	計	收稅高	納後ノ金分上	收稅高	計	本年受取高								
本應有高	計	印紙	收稅高	納後ノ金分上	收稅高	計	本年受取高	前ヨリ越高						
	收稅高													

第十三類 煙草

三百二十九

引	後	明治何年 至 何月 何日		件名	營業鑑札 卸賣	下渡手數料 小賣	營業稅		營業鑑札書換 卸賣	并引換手數料 小賣	仕入鑑札料	仕入鑑札書換并引換料	合計
		計	未納				高	金					

右之通候也  
 年號月日  
 租稅頭何誰殿  
 官苗字名印

第四號

元	計	新規渡	燒失等二而	改名等二而	引換渡	前ヨリ	越	從何月至何	月受取高	明治何年 至 何月 何日	煙草小卸賣營業鑑札元拂計算表	件名			
												枚	卸	數	

第十三類 煙草

計	差引		本廳有 高	廢業 = 付	返納	改名等 = 而引	換 = 付返納
	外	外					

右之通候也  
年號月日

租稅頭何誰殿

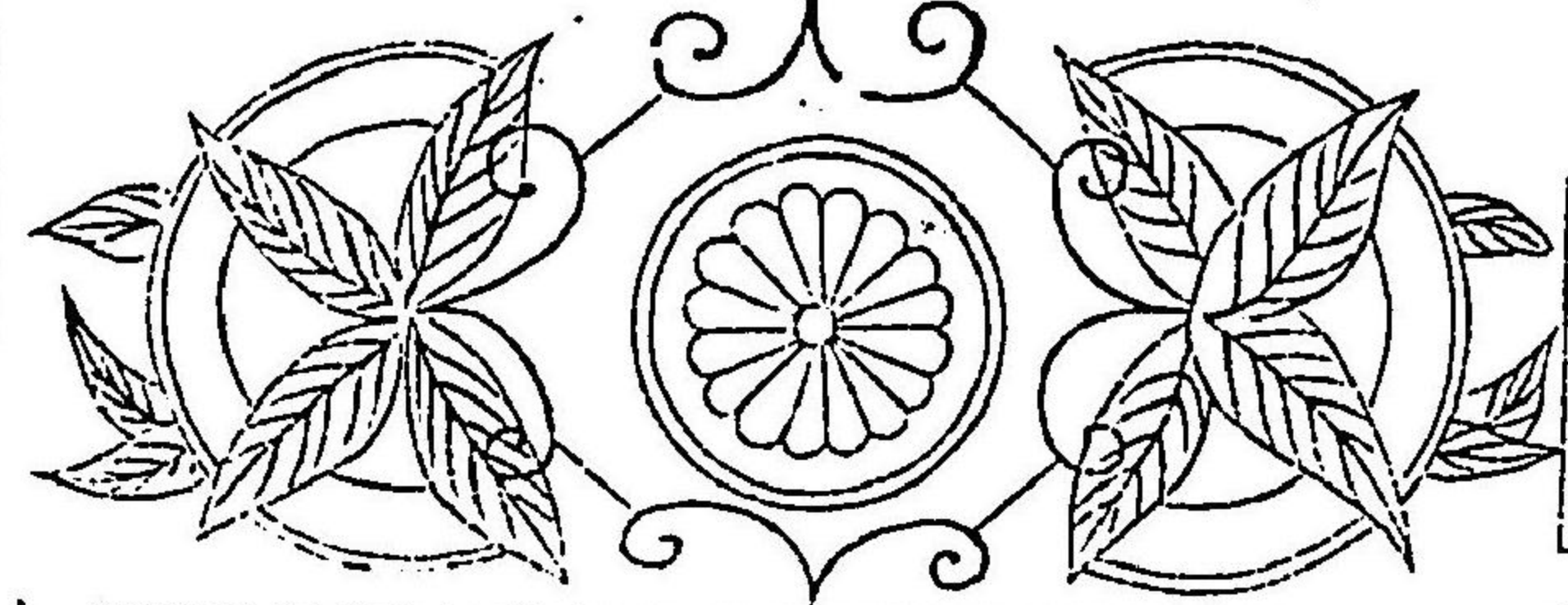
官笛字名印

第二千六百九十二 明治八年十二月五日大藏省達

府 縣

乙第百五十九號  
本年十月第百五十號ヲ以公布相成候煙草稅則中記載有之候煙草(卸小)賣營業免許鑑札見本別紙ノ通候條此旨相達候事  
別紙

表



租稅頭  
印押切

大日本帝國政府

煙草卸賣營業免許鑑札

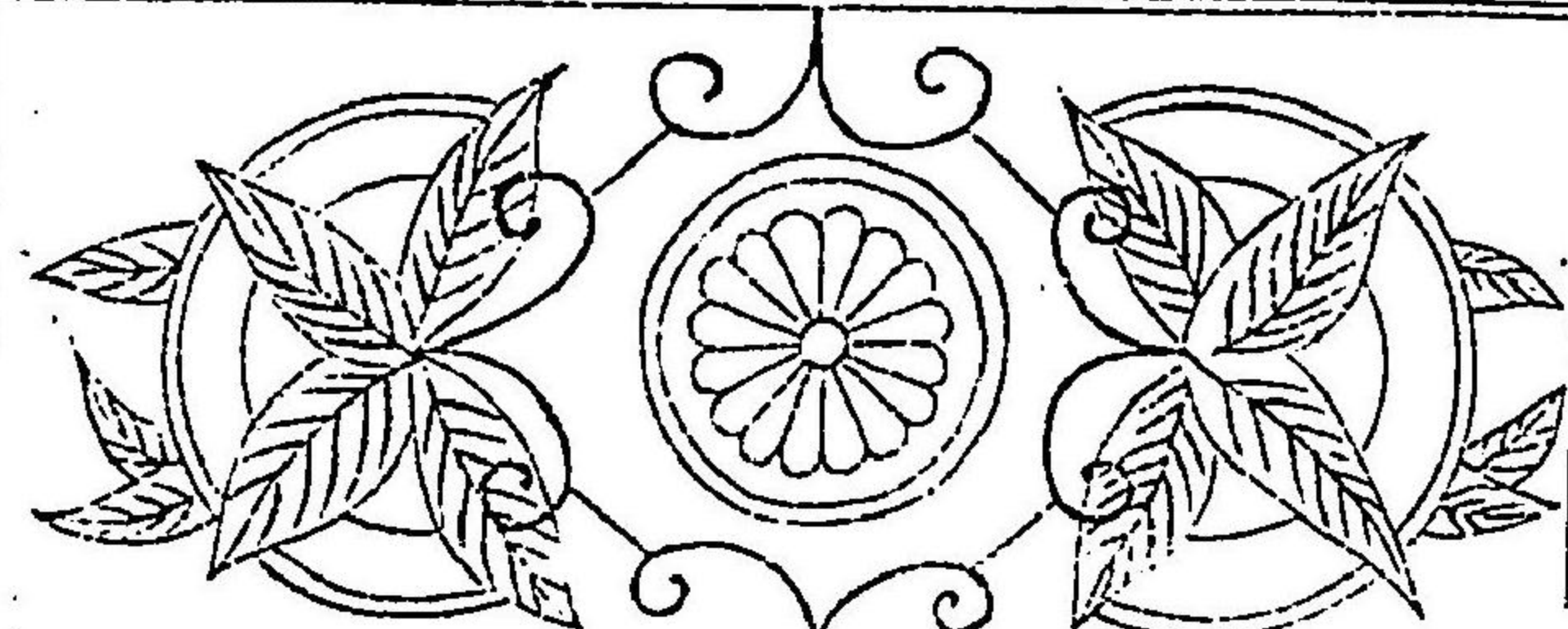
何府

何國々々々

何ノ誰

何号

表



組稅頭  
印押切

大日本帝國政府

煙草小賣營業免許鑑札

何府  
何縣  
何國々々々  
何ノ誰

何号

裏 各押

廳切

年月日

何府  
何縣  
何廳

印

裏各押

廳切

年月日

何府廳

印

第一千六百九十二

明治九年四月廿九日大藏省達

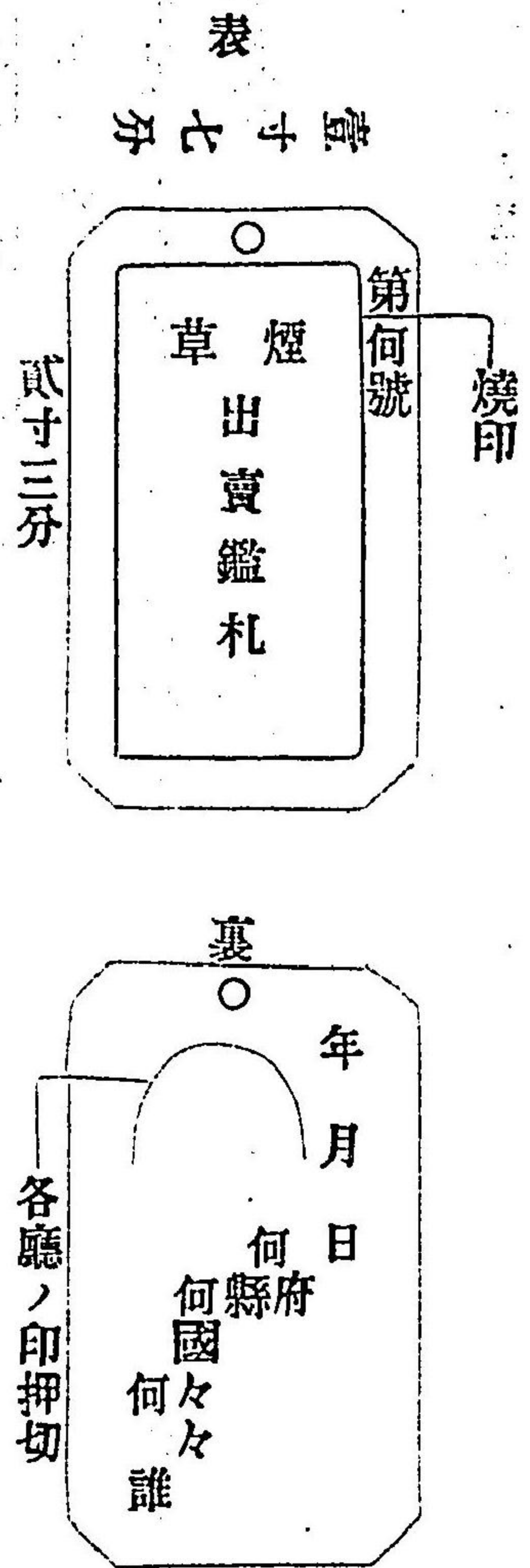
乙第二十九號

府縣

今般第五拾九號ヲ以テ煙草稅則追加ノ條公布相成候ニ付テハ煙草出賣鑑札別紙圖ノ如ク各廳ニ於テ木札ヲ製シ相渡シ可申此旨相達候事

別紙

煙草出賣鑑札雛形



九年大藏省達  
第六十二號  
以テ煙草稅則追加ノ條公布相成候ニ付テハ煙草出賣鑑札別紙圖ノ如ク各廳ニ於テ木札ヲ製シ相渡シ可申此旨相達候事

第一千六百九十四

明治九年七月十日大藏省達

乙第六十二號

府縣

第十三類 煙草

三百三十七



先般當省乙第二十九號ヲ以テ煙草出賣鑑札雛形相違候處自今鑑札裏面姓名ノ上へ御賣又ハ小賣ノ文字書加へ相渡可申此旨相違候事

但、是迄下渡候鑑札ノ儀ハ漸次本文ノ如ク其鑑札へ書入可申事

第二千六百九十五 明治十年十二月七日大藏省布達

甲第二十四號

烟草御賣小賣兼業ノ者ト雖、製造煙草ヲ店頭へ展示スル上ハ總テ印紙貼用致置可申此旨布達候事

雜則

第二千六百九十六 明治元年十二月廿二日布告

富興行ノ儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之ヲ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞へ以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

第二千六百九十七 明治五年八月廿三日教部省達

第十五號

府 縣

能狂言ヲ始メ音曲歌舞ノ類ハ人心風俗ニ關係スル處不少候ニ付左之通各管内營業之者共へ可相違事

- 一能狂言以下演劇之類御歴代之皇上ヲ摸擬シ上ヲ褻瀆シ奉リ候躰之儀無之様厚注意可致事
- 一演劇之類專ヲ勸善懲惡ヲ主トスヘシ淫風醜態之甚シキニ流レ風俗ヲ敗リ候様ニテハ不濟候間弊習ヲ洗除シ漸々風化之一助ニ相成候様可心掛事
- 一演劇其他右ニ類スル遊藝ヲ以渡世致シ候者ヲ制外者抔ト相唱へ候從來之弊風有之不可然儀ニ候條自今ハ身分相應行儀相慎ニ營業可致事

第二千六百九十八 明治十二年二月十日内務大藏兩省達

乙第七號

府 縣

娼妓貸座敷賦金ノ義ハ地方稅中ニ屬スルモノニ無之候得共從前ノ通府縣ニ於テ適宜徵收支出シ年度限リ徵收高及ヒ仕拂表ヲ製シ内務大藏兩省へ届出ツヘシ此旨相違候事

第二千六百九十九 明治九年二月十八日大藏省布達

甲第二號

税金相納メ諸種鑑札申受候後廢業或ハ換業等致候者ハ自今右申受ノ日ヨリ十五日以内ニ其旨届出候得ハ税金ヲ返付シ其手数料トシテ更ニ金二拾錢收納候條此旨布達候事  
但右日限ヲ過去リ申立候者ハ此限ニ非ス

第一千七百 明治十年二月廿一日大藏省達

乙第七號

府 縣

諸鹽札類廢業代換等ニ而營業人共ヨリ返戻ノ分其外トモ後來使用難相成分ハ爾來不及返納候條於該府縣不取締無之様消却取計年々六月限該年分取纏メ詳細記載届書可差出此旨相達候事

第一千七百一 明治十年二月廿三日内務省達

丙第十號

東京府 大阪府 神奈川縣 兵庫縣 新潟縣 長崎縣

諸印紙類廢造制禁ノ儀ハ人民熟知ノ筈ニ有之候處往々舶來麥酒等へ貼付ノ銘紙ヲ廢造シ販賣致シ候向モ有之哉ニ相開候條以來右銘紙等廢造不致様管下人民へ可相達此旨相達候事

第一千七百二 明治八年十二月十九日布告

第九百九十五號

二十三號布告  
ハ雜稅ノ部ニ  
在リ

從來人民ニ於テ海面ヲ區畫シ捕魚採藻等ノタメ所用致居候者モ有之候處右ハ固ヨリ官有ニシテ本年二月二十三號布告以後ハ所用ノ權無之候條從前ノ通所用致度者ハ前文布告但書ニ準シ借用ノ儀其管轄廳へ可願出此旨布告候事

第一千七百三 明治八年十二月十九日達

九年七十四號  
遠ヲ以テ本號  
ノ但書ヲ取消  
ニシテ各地方  
ニ於テ適宜府  
縣稅ヲ賦セシム

第二百十五號

沿海府縣

捕魚採藻等ノタメ海面所用ノ儀ニ付今般第九百九十五號ヲ以布告候ニ付テハ右借用願出候者ハ調査ノ上差許其都度内務省へ可届出此旨相達候事

但是迄當分ノ收稅致來候分ハ其稅額ヲ以借用料ニ引直シ可申事

第一千七百四 明治九年七月十八日達

第七十四號

沿海府縣

明治八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>日 第二百十五號ヲ以捕魚採藻ノタメ海面所用ノ儀ニ付相達置候處詮議ノ次第有之右但書取消シ候條以來各地方ニ於テ適宜府縣稅ヲ賦シ營業取締ハ可成從來ノ慣習ニ從ヒ處分可致此旨相達候事

第一千七百五 明治九年十月二日内務省達

乙第九百十六號

府 縣

捕魚採藻ノ爲メ海面所用之儀ニ付本年第七十四號ヲ以沿海府縣へ公達ノ旨モ有之付テハ湖川ト雖モ總テ海面ニ準シ處分可致其他官有ニ屬スル池沼ハ人民ノ願ニ因リ他ニ無碍得分ハ明治七年當省乙第五十五號達ニ照準各種ノ名義ヲ以借用料收入所用可差許積相心得當省へ可申出此旨相達候事

第一千七百六 明治七年十二月十二日開拓使布達

第十三類 雜則

第四號

府 縣

地所規則ハ地所ノ部ニアリ

當使管下北海道各所ニ於テ漁場並昆布場自費新開ノ分ハ自令其歲ヨリ五ケ年間免稅ノ上各處開業ノ難易所獲ノ多寡ヲ審査シ鄰地ノ比較ヲ以第六ケ年目ヨリ相當ノ收稅可申付候條志望ノ者ハ夫々開業可致此旨布達候事

但地所ノ儀ハ地所規則第三條ノ通相心得其年ヨリ五年間除租タルヘキ事

第二千七百七 明治九年十一月十三日開拓使布達

甲第三號

當使管內漁場昆布場ノ儀從來廣大ノ地所ヲ借受場所相當ノ營業ヲ爲サス他人開業ノ妨害ヲ爲ス者抄カラス候處今般右等ノ類ハ總テ上地申付候ニ付左ノ各郡ニ於テ經界步數相定メ北海道地所規則ニ照準更ニ相當ノ場所可割渡候條營業志望ノ者ハ別紙書式ニ倣ヒ願書本副ニ通相認メ可願出此旨布達候事

漁場昆布場有之郡數

- 一千島國 擇捉 振別 藥取 紗那 國後 五郡
- 一北見國 斜里 網走 常呂 紋別 枝幸 宗谷 利尻 禮文 八郡
- 一根室國 標津 目梨 二郡 根室 花咲 野付 三郡ノ内
- 一天鹽國 増毛 留萌 苫前 天鹽 四郡ノ内

- 一膽振國 千歲 白老 幌別 三郡
- 一日高國 沙流 新冠 三石 三郡
- 一釧路國 白糖 釧路 二郡 厚岸郡ノ内

書式

漁場營業願 昆布場營業願

私 儀

御管下何國何郡ノ内字何所ニ於テ別紙調書ノ通<sup>何處昆布場</sup>營業仕度候間相當ノ地所御割渡被下度此段奉願候也

年月日

族籍<sup>寄留人ナレハ寄留地ヲモ記スヘシ</sup>

苗字名印

前書願出之趣御開届相成度候也

開拓長官黒田清隆殿

何府知事 何縣令

苗字名印

漁場調

何國何郡字何

一<sup>其他</sup>餅場<sup>之ニ準ス</sup>

表口

何間

何ヶ所

與行

何間

總坪

幾坪

一漁舍倉庫其他建  
物之ニ準ス

幾棟

間口

何間

與行

何間

總坪

幾坪

右ハ新規造營敷亦ハ元漁場持ヨリ讓受ル敷

一建網引網其他  
之ニ準ス

何統

一漁夫

何名

一漁舟

何舟

何隻

何舟

何隻

一例年取獲高又ハ見  
込高

右之通御座候也

年 月 日

苗 字 名 印

昆布場調

何國何郡字何

一昆布場

一箇所

表口

何間

與行

何間

總坪

幾坪

一納屋倉庫其他建  
物之ニ準ス

幾棟

間口

何間

與行

何間

總坪

幾坪

右ハ新規造營敷又ハ元漁場持ヨリ讓受ル敷

一舟

何舟

何隻

何舟

何隻

一雇夫

何名

一例年取獲高又ハ見  
込高

右之通御座候也

年月日

苗字名印

第一千七百八 明治十一年五月八日開拓使布達

甲第四號

當使管下北海道各所ニ於テ漁場昆布場自費新開ノ分ハ五ケ年間免稅ノ義明治七年第四號  
第十四號<sup>管内</sup>ヲ以テ及布達置候處開業ノ際斷岸ヲ刻リ海汀ヲ埋メ河底ノ流水ヲ浚ヘ或ハ自然  
ノ地形ニ依リ各開設ノ難易漁獲ノ多寡等頗ル徑庭有之候ニ付自今實地ヲ精査シ更ニ二ケ年  
乃至五ケ年除稅候條此旨布達候事

第一千七百九 明治九年三月二日布告

第二十五號

露西亞國ト交換相成候樺太島ニテ從來漁業營居候者ハ舊漁場ニ於テ引續營業不苦候條此旨  
布告候事

但同所へ出張ノ節ハ人民船舶共尋常海外渡航ノ通航海公證願受所持可致事

第一千七百十一 明治六年十二月三日達

外務省  
陸軍省  
海軍省  
各省

東京府下神田富山町渡邊一藏外數名申合開洋社ト唱ヘ外國鯨獵法ヲ以テ捕鯨營業イタシ度  
旨願出候ニ付浦方漁業ノ妨害不相成候陸地距離海程七十里以外ニ於テ鯨獵差許尤右船印ト  
シテ白地ニ赤ニテ蜻蛉ノ形ヲ畫シ候小旗相用又相圖トシテ紅白ノ吹貫相揚ケ且小銃發候儀  
トモ差許候條此旨可相心得事

但小旗繪圖者追テ大藏省ヨリ可相達候事

第一千七百十一 明治十年八月十一日內務省達

乙第七十二號

府 縣

當省七年甲第十八號達ニヨリ取調來候物産表ノ儀ハ品類繁雜ニ涉リ地方ノ勞費ヲ増シ候ニ  
付今般更ニ改正先ツ一般生産ニ緊要ナル農産物ヲ選ヒ種類節減表式例言別紙ノ通相定候條  
精々注意毎年翌三月限取調可差出此旨相達候事

但シ昨九年分ハ此表式ニ拘ハラズ數量通價ノミ取調不苦候條本年十一月限り可差出候事

別紙

農産表編成例言

第一 此農産表ハ全國必要ナル農業上ノ產出物ニ就テ其播種地產額通價ノ増減ヲ徵センカ  
爲ニ編成スル所ナリ

第二 物産ノ種類ヲ大別シテ二種トナス第一普通物産第二特有物産是ナリ

第三 普通物産トハ各地一般ニ耕種スル所ノ日用食料ノ要品ヲ謂フ此類ヲ定メテ十四種トナス

第四 特有物産トハ地質氣候等ノ異同ニヨリテ産出ノ地方限リアルモノヲ謂フ此種類ヲ假定シテ廿八種トナス其目左ノ如シ

實綿 麻繭類 自他製糸ニ拘ハラズ 其總高ヲ掲クヘシ

生糸類 實買ニ拘ハラズ其 總高ヲ掲クヘシ 藍葉 製茶 甘蔗 楮皮 類皮ニ極ノ類之ニ準ス 生蠟 漆汁 藥煙草 菜種 紅花 紙類 人參 椎茸 蘭蜂蜜 食鹽

乾鮑 乾鰓 乾魚 鰯 鱈 鮭 海參 鯉節 石花菜 干鰯

第五 蔬菜菓實ノ類其生質腐敗シ易クシテ久藏遠輸ニ堪エサルモノハ姑ク之ヲ除クヘシ但シ貯藏法ヲ得遠ク地方ニ輸送スル著名ノ物産ハ此限リニアラス(例ヘハ紀州ノ蜜柑甲州ノ葡萄美濃ノ柿ノ類ノ如シ)

第六 凡ソ物産ハ一郡毎ニ之ヲ調査ス若シ一郡ニシテ他管ニ分涉スルモノハ宜シク其本管ニ係ルモノノミヲ擧クヘシ

第七 數量ハ穀類ニハ石ヲ用ヒ其他ハ都テ斤(百六十匁)ヲ用フヘシ

第八 耕地ハ現ニ植物ヲ栽培スル處ノ段別ヲ謂フ

第九 通價ハ一郡中ノ平均ヲ取リ一石一斤ノ價格ヲ擧クヘシ

第十 凡ソ産額ノ増減平年ニ比較シテ大ニ差異アルモノハ必ス其原因ヲ究認セサルヘカラス例ヘハ風雨寒暑水旱霜蟲ノ災或ハ開墾培養種子器具方法ノ改良進歩或ハ貿易會社ノ影響等ニヨリテ其産出ヲ増減伸縮スルノ類宜シク其事由ヲ審カニシテ之ヲ每郡ノ表尾ニ附記スヘシ

第十一 凡ソ物産ノ調査ハ一時ニ各種ノ全備ヲ求メテ反テ其實ヲ得サランヨリモ寧ロ下手ノ緩急難易ヲ酌量シテ特ニ全力ヲ有用必益ノ物ニ注キ以テ其詳細確實ヲ要スルニ若カストス故ニ或ハ地方ノ情況ニヨリ産額耕地通價ノ三月中ニ於テ一時其實數ヲ得難キモノハ姑ク其本目ヲ闕略シテ漸次ニ之ヲ補填スヘシ倘シ各自均シク詳カナラサルモノハ亦敢テ臆算セス須ラク他日ヲ待テ之ヲ調査スヘシ

例言ニイフ如ク實際調査イタシ難キ部分ハ姑ク之ヲ除キ置漸次完全ナルヲ要ス

明治何年何國何郡普通物産表 何ヶ村 府縣名

米	石	播種地段別	前年比較		産額	前年比較		一石一斤ノ通價
			増	減		増	減	
糯米		反						



製茶ハ本邦ノ一大産物ニシテ其利甚々大ナリ然ルニ其製方未々全ク海外ノ嗜好ニ適セズ一  
 度支那人ノ再製ヲ經サレバ彼ノ需用ニ供セズ而シテ其需用僅ニ米國ニ止リ歐洲ニ適セズ是  
 ヲ以テ近年産出大ニ増スト雖モ却テ其價格ヲ低下シ殆ント勞費ヲ償ニ足ラズ是ニ於テ新ニ  
 紅茶製方ヲ開ンカ爲メ義ニ委員ヲ印度支那ニ派遣シ其製方ヲ研究センメシニ印度ノ製最モ  
 精良ニシテ其弊價諸州ニ冠タリ本年高知縣下ニ就テ其製法ニ倣ヒ試製シ且其販價ヲ實驗セ  
 シメシニ果シテ其嗜好ニ適スルヲ確認ス然レモ今其製出ノ始ニ當リ若シ粗惡ノ製品ヲ輸サ  
 ハ必スヤ外人ノ信用ヲ失ヒ之カ爲メ全國紅茶ノ聲價ニ影響シ其損害亦タ測カル可ラズ是レ  
 此規則ヲ設ケ廣ク製方ヲ教示スル所以ナリ傳習人等能ク此旨ヲ體認遵守スヘシ

勸農局

紅茶製方傳習規則

十二年同省甲  
第一條達ヲ以  
テ此條中ヲ改  
正ス

第一條 印度風紅茶製法ノ傳習ヲ望ムモノハ一府縣下五人ヲ限り年齢十七八歳ヨリ三十歳  
 以内茶事篤志ノ者ニ限り勸農局製茶所ニテ傳習スヘシ

但長野宮城福島山形若手秋田青森  
等格別茶産無之縣々ハ當分除之

第二條 傳習志願人ハ左書式ノ如ク願書ニ通テ認メ戶長與印ノ上毎年一月二十日限り管轄  
 廳へ差出スヘシ

紅茶製法傳習願書式 料紙美濃紙二ツ折

紅茶製法傳習願

私儀兼テ製茶執心ニ付今般勸農局紅茶製法自費ヲ以テ傳習相受度御規則ノ儀ハ堅ク遵奉  
 可仕候間其筋へ御申立被下度此段奉願候也

何府縣華士族平民

何大區何小區何町何番地其長次男或兄弟第何介又寄留同居等ノ  
如キハ區町名番地誰方ト記スヘシ

年月日

姓名印

明治何年何月何年何月

同

同

右身元引受人

姓名印

何府縣長官宛

前書之通相違無之候間與印ノ上差出候也

戶長

姓名印

第三條 傳習志願人ヨリ差出シタル願書ハ府縣廳ニテ各一通ヲ取纏メ二月十五日限り勸農  
 局へ送付スヘシ

第十三類 雜則



但志願人無之モ亦本文期迄ニ其旨同局へ申報スベシ

第四條 勸農局ハ製茶季節ヲ量リ製茶場并該場開鎖ノ月日ヲ豫定シ各管轄廳ヲ經テ本人へ達スベシ

第五條 傳習人往復旅費ハ勿論茶場從事中共賃錢ヲ給セス尤格別勉勵現業練達ナル者ハ製中至當ノ賃錢ヲ與フルコアルベシ

第六條 傳習人茶場使役中總テ勸農局吏員ノ命令ニ違背スヘカラサルベシ

但品行不正且成業ノ見留無之モノハ勸農局吏員ヨリ傳習差留メ直チニ退場ヲ命スベシ

第七條 傳習人茶業熟成スルモノハ將來左雜形ノ如キ卒業免狀ヲ勸農局ヨリ付與スベシ

免狀雜形

第何號	何府族籍
印度風紅茶製造傳習卒業候事	姓名
年月日	勸農局
	<input type="checkbox"/>

第八條 卒業免許狀ヲ受ケタル者ハ勸農局ノ都合ニ由リ使用シ製法教授ノタメ各地派遣ヲ命スルコアルヘシ

但本文使用スル時ハ相當ノ給料ヲ與フベシ

第九條 卒業免許狀ヲ受ケタルモノ何レノ地方ヲ問ハス之レヲ他人ニ傳ヘ又ハ備ハレテ茶製スルモ勝手タルヘシ

但シ本文ノ如キ時ハ其所轄廳へ届出該廳ニ於テハ其事由ヲ詳記シ勸農局へ通知スベシ

第十條 傳習人ハ勸農局ノ卒業免許狀ヲ待タズシテ擅ニ他人ニ傳ヘ或ハ備レ紅茶製造ス可カラズ

第十一條 卒業免許狀ヲ受ケタル甲ノモノ之レヲ乙ノモノヘ傳ヘ乙竟ニ熟業スルニ至リ甲之レカ保証ヲナシ卒業免許狀ヲ乞フ時ハ勸農局吏員試験ノ上第七條ノ如ク之レヲ授與スヘシ

但本文ノ時ハ左書式ノ如ク甲ノモノヨリ願書ニ通其管轄ヲ經テ勸農局へ差出スベシ

卒業免許狀下渡願書式 料紙美濃紙ニツ折

御免狀御下渡願

何府族

何大區何小區何町何番地住其長次男或寄附同居

右之者へ印度風紅茶製法私ヨリ兼テ教授及候處全ク孰業仕候ニ付卒業御免狀御下渡相成候様仕度右習熟ノ儀 於私保証仕候間勸農局へ御申立被下度此段奉願候也

勸農局製茶傳習卒業

何府族籍

姓名 印

何府長官宛

年月日

第十二條 假令卒業免許狀ヲ受ケタルモノト雖モ他ニ備ハレ茶製シ或ハ教授スル時不相當ノ給料ヲ食リ又ハ粗製スルルハ一旦授與シタル免許狀ヲ取揚可シ

第十三條 傳習人茶場從事中病ニ罹リ又ハ事故アリテ退場ヲ乞フモノハ之ヲ許スベシ

十二年同省甲  
此條中ヲ以テ  
正ス

第十四條 卒業ノモノ製造輸出ノ紅茶ハ必ス左ノ品名ニ區別スベシ

白毫 ペコウ 碎白毫 フロツケンペコウ

小種 シウチヨン 工夫 コンゴウ

武彝 ホヘア 箕子 ファンニンダ

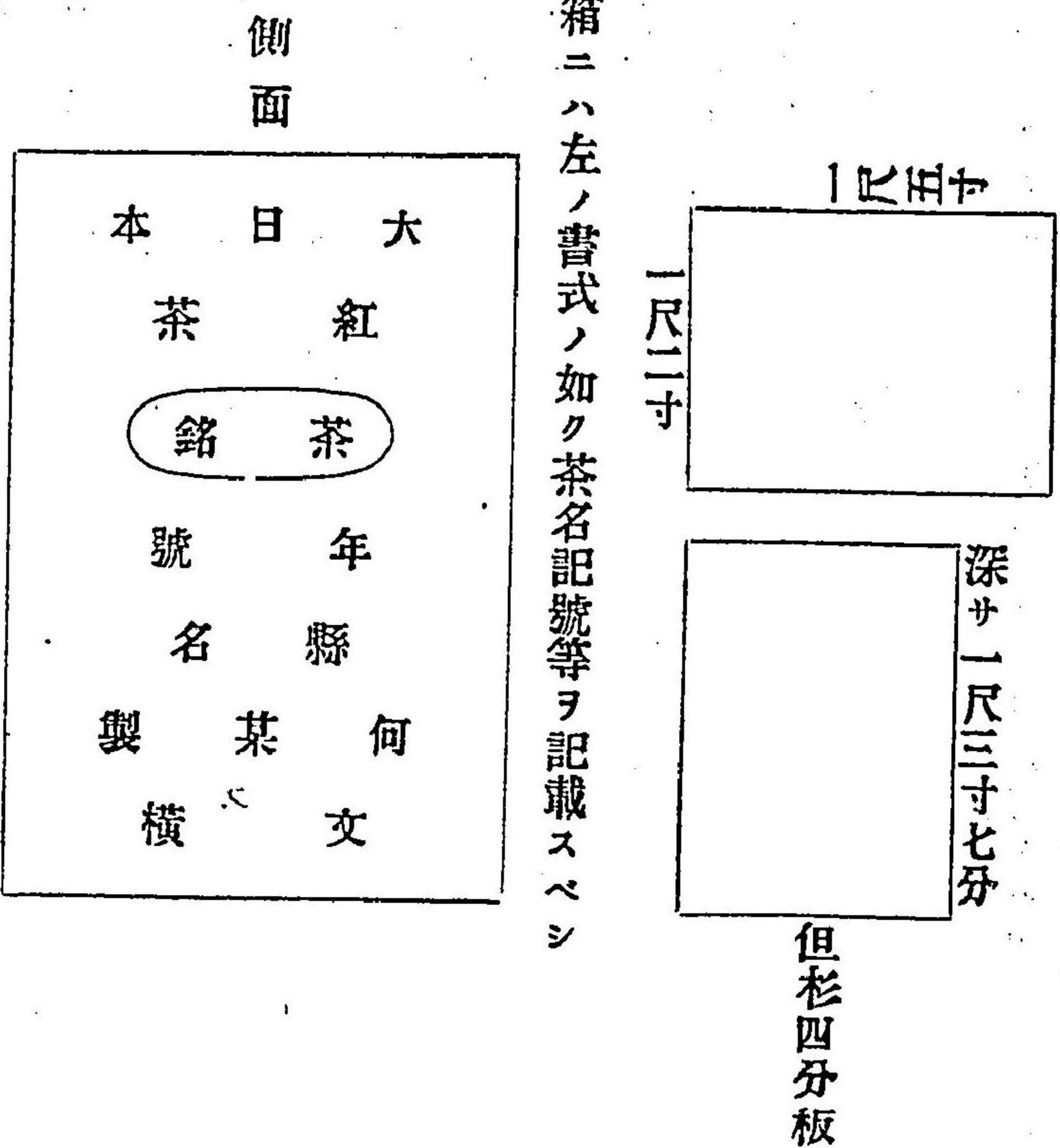
粉末 ダスト 磚茶 (ブレッキチー 粉茶ヲ用テ製スルモノ)

第十五條 製造ノ紅茶各品區別ノ上左ノ雛形ノ如キ箱ヲ用ヒ鉛板ニテ封裝スベシ

三三

十二年同省甲  
此條中ニ以テ  
增加ス

第十六條 茶箱ニハ左ノ書式ノ如ク茶名記號等ヲ記載スベシ



第十七條 傳習人員ハ勸農局ノ都合ニ由リ毎年増減シ又ハ該規則ヲ改正スルコトアルベシ  
第二千七百十三 明治十二年一月十三日內務省布達

第十三類 雜則

甲第一號

昨十一年甲第一號紅茶製方傳習規則中別紙之通改正候條此旨布達候事

別紙

第一條

- 一 五人ヲ改メ十八トス
- 一 十七八歳ヨリ三十歳ヲ改メ十七歳ヨリ三十五歳トス
- 一 以内ノ下へ普通筆算出來ノ六字ヲ加フ
- 一 但書ヲ削除ス

第十四條

- 一 白毫、碎白毫、ヲ改メ
- 一 工夫、武彝、ヲ改メ

碎白毫 白毫  
工夫 武彝

第十五條

- 一 内法ノ二字ヲ加フ

第一千七百十四 明治十三年九月廿二日達

第四十九號

廿一號布告ハ  
米穀油賣買ノ

近來竊ニ製茶砂糖反物薪炭等種々ノ物品ヲ以テ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有

使 府 縣

部(第一千六百七十七)ニ  
アソ

之趣右ハ總テ本年 月 日 第貳拾壹號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第一千七百十五 明治十三年九月廿七日司法省達

丁第廿一號

大 審 院  
諸 裁 判 所  
各 檢 事

本年第二十一號公布ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙ノ通御達有之候條此旨相達候事

別紙

司 法 省

本年第二拾壹號布告ノ儀ニ付別紙ノ通使府縣へ相達候條此旨爲心得各裁判所へ相達スヘキ事  
明治十三年九月廿二日  
太政大臣三條實美

(別紙ハ同月同日第四十九號達同文ニ付略之)

第一千七百十六 明治十三年一月十三日大藏省達

乙第四號

府 縣

各地方ニ於テ毎年米麥雜穀類現收ノ數量及ヒ播種以後收穫季節ニ至ル迄水旱其他故障ノ有無等實際ノ景況取調當省常平局へ報告可致此旨相達候事

但報告期限及ヒ書式其他詳細ノ儀ハ常平局長ヨリ可及通達候事

第一千七百十七 明治十三年二月廿四日內務大藏兩省布達

第十二類 雜則

三百五十九

甲第三號

來明治十五年二月一日ヨリ同三月二十日マテ東京ニ於テ穀類葉煙草茶種共進會開設候條此旨布達候事

但出品手續會場規則審査規則并開設之場所等ハ追テ布達可致事

第一千七百十八

明治十三年十二月十四日内務省達

乙第五十一號

府 縣

勸業資本金ヲ貸下ケタル事業ハ總テ其景況毎歲可届出筈ニ候處自今ハ該業ノ都合ニ應シ年兩度實地檢査ヲ遂ケ其利弊得失ヲ詳悉シ六月十二月ニ具狀可致尤臨時當省官員ヲ派遣シ檢査爲致候儀モ可有之此旨相達候事

但動物及農具或ハ器械等貸渡有之分モ本文ニ倣ヒ景況可届出事

博覽會

第一千七百十九

明治五年二月十四日文部省達

番外

今般於當省博覽會相關候ニ付別紙摺物相廻シ候十枚ツ、引取早々回達可有之候也

別紙

博覽會ノ旨趣ハ天造人工ノ別ナク字内ノ產物ヲ蒐集シテ其名稱ヲ正シ其用方ヲ辨シ人ノ知見ヲ廣ムルニ在リ就中古器寶物ニ至テハ時世ノ推遷制度ノ沿革ヲ追徵ス可キ要物ナルニ因リ嚮者御布告ノ意ニ原ツキ周ク之ヲ羅列シテ世人ノ放觀ニ供セント欲ス然レ其各地ヨリ徵集スルノ期ニ至テハ之ヲ異日ニ待サルヲ得スシテ現今存在ノ寶器ハ社寺ニ遺傳スル什物ノ外其用ニ充ツ可キ物少ナク加フルニ皇國從來博覽會ノ學アラサルニ因リ珍品奇物ノ官庫ニ貯フル所亦若干許ニ過キス因テ古代ノ器物天造ノ奇品漢洋船舶新造創製等ヲ論セス之ヲ藏スル者ハ博物館ニ出シテ此ノ缺ヲ補ヒ以世俗ノ陋見ヲ啓キ且古今ノ同異ヲ知ラシムルノ資助ト爲スヲ請フ

- 一 品物ハ二月十五日ヨリ文部省博物館へ持出ス可ク尤モ重大ノ品ハ持夫差出ス可キ事
- 一 品物受取ノ節ハ預リ證書ヲ渡シ置キ會後ニ引替差戻ス可キ事
- 一 永久博物館ニ預ケ置キ苦シカラサル品ハ別段預リ證書ヲ渡シ置キ持主入用ノ節ハ何時ニテモ證書引替相渡ス可キ事
- 一 出會ノ品ハ必ス持主ノ姓名ヲ記シ之ヲ列ス可キ事
- 一 會期ハ來ル三月十日ヨリ二十日ノ間ヲ限リ展覽ハ毎朝九字ヨリ午後四字ヲ限トス
- 但シ常備ノ品ハ一六ノ日同時刻ノ間拜見相成候事
- 一 拜見人ハ男女ヲ論セス一日ニ大畧千人ヲ限リ拜見ノ切手相渡候間右持參致ス可キ事

一切手ハ文部省博物館及ヒ諸方書林ヨリ相渡シ申ス可キ事  
但シ一枚一人ニ限り候事

文部省  
博物館

第一千七百二十 明治八年四月廿七日内務省達

府 縣

乙第五十四號

今般博覽會事務局博物館ト改稱當省所屬相成候ニ付以後各地方管下於テ博覽會場物品拜借  
願等總テ同館ヘ屬スルノ事件ハ當省ヘ可申立此旨爲心得相達候事

第一千七百二十一 明治十年五月廿一日内務省布達

甲第十一號

博物館ヘ獻品及ヒ出品センコト願フモノハ左之通可相心得此旨布達候事

博物館ヘ獻品順序

一博物館ヘ物品獻納セント欲スルモノハ管轄廳ヲ經由シテ願出ヅヘシ又時宜ニヨリ直ニ該  
館ヘ願出ルモ妨ケナシ總テ本人ノ便宜ニ任ス  
但僻遠ノ地ニアリテ獻品セントスル志アリト雖モ海陸運搬ノ費用ニ乏シキモノハ其品  
名ト形狀トヲ詳記シ管轄廳又ハ博物館ヘ申立指揮ヲ乞フベシ同局ニ於テ未タ館中ニ充

第十四年第廿  
六號公達ヲ以  
テ博物館ヲ以  
テ事務省ノ管  
理トス

備無之品又ハ衆人ニ示シテ裨益アルモノト認ルモ其願ヲ許シ舟車ノ費用ハ總テ官ヨ  
リ支給スルコトアルヘシ

博物館ヘ出品順序

一博物館ヘ私藏ノ諸品排列センコト望ムモハ願書等ヲ製スルニ及ハス直ニ該館ニ差出スヘ  
シ該館於テハ之ニ預リ證書ヲ付與ス返却ヲ乞フモハ其證書ヲ持參スルモノヘ返却スヘシ  
又時宜ニヨリ管轄廳ヲ經テ差出スモ妨ケナシトス

但無ニノ物品ニシテ大ニ衆人ノ裨益トモナルヘキモノ又ハ官ヨリ其物品ヲ指シテ出品  
ヲ乞フモノハ獻品ニアラスト雖モ往返ノ運輸費ハ官ヨリ辦償スルコトアルヘシ

第一千七百二十二 明治十二年三月廿八日内務大藏兩省達

府 縣

乙第十六號

内外博覽會事務之義ハ以來内務大藏兩省於テ管理候條右事務ニ關スル諸申牒等ハ自今兩卿  
宛ニテ進達可致此旨相達候事

第一千七百二十三 明治九年一月廿二日内務省達

府 縣

乙第八號

明治八年乙第五十四號ヲ以テ博覽會場物品拜借願等總テ博物館ニ屬スルノ事件ハ當省ヘ可  
申立旨相達置候處自今同場物品拜借願ノ儀ハ別紙條例ニ照準願出候様可致此旨相達候事

第十三類 博覽會

三百六十三

別紙

物品拜借人心得方條例

- 第一條 各地方於テ博覽會興行ノ節博物館備品ノ内拜借願度モノハ其管轄廳ヨリ直ニ同館ヘ申出候ハ、品柄ニ寄リ聽届可申尤類品無之品其他同館都合ニ寄リ申出候品物ノ内貸與難相成儀モ可有之事
- 第二條 諸物品貸與之節ハ博物館於テ損傷ノ有無ヲ篤驗シ品名代價付ケテ相副下ケ渡候條其節請取人ヨリ假證書ヲ差出シ置キ追テ本人歸縣ノ上其所管轄廳長官ヨリノ拜借本證書ニ引替可申事
- 第三條 既ニ貸下ケ候物品ハ篤シ保護可致ハ勿論ニ付萬一紛失損傷等ノ儀有之ニ於テハ其物品代價付ケ立ノ通辨償可致事
- 第四條 製造物又ハ動物等ハ陳列中多少損害ヲ生スヘキ品類ニ付右手入方費用トシテ代價三分ノ一上納スヘク尤大損害ニ及候分ハ全價付ケ立ノ通辨納可致事
- 第五條 風日塵埃ノ爲メ損シ易キ品及ヒ紛失シ易キ細小品等總テ硝子函ニ收藏シ猥リニ觀者手ヲ不觸様取締可致事  
但戸隙ノ日光ニモ不觸様注意可致事
- 第六條 拜借品ハ滿期終會後三十日以内ニ必ス本館ヘ返納可致事

第十一号内務省令第十四号改正ス

但最初博覽會願濟ノ期限ヲ變換候節ハ其時々可申立事

第七條 甲乙開場互ニ轉借致シ候儀決テ不相成若シ不得止事情有之ニ於テハ雙方共書面ヲ以テ可願出事

第八條 物品返納ノ節ハ博物館ノ檢査ヲ遂ケ証書ヲ返付スヘキ事

第九條 都テ物品遞送入費ハ拜借人可爲自費事

用紙常用美濃野

假証

一何々

何箇

一何々

何箇

ノ何點

右者某縣某村於テ博覽會興行中御貸渡相成正ニ落手仕候歸縣ノ上本証書可差出候也

該縣出張

年月日

姓名印

内務省

第十三類 博覽會

博物館御中

用紙常用美濃野

證

一品名

代價金何圓

頁數

一品名

代價金何圓

頁數

ノ何點

此代價付

金何圓

右者當縣某町於テ何月幾日ヨリ幾日間博覽會與行中御貸渡相成正ニ拜借仕候會後返納方ハ都テ御規則之通可心得依テ證書如此候也

年月日

某府長官姓名印

內務省

博物館御中

第一千七百二十四

明治十一年五月九日內務省達

乙第四十號

府 縣

明治九年一當省乙第八號布達博物館物品拜借人心得方條例第四條へ左ノ通但書追加候條此旨相達候事

第四條 製造物又ハ動物等ハ云々但製造物ノ内返納ノ際點檢ノ上全ク損害ノ痕ナク手入ニ及ハサル品又ハ損所微少ナルモノハ代價三分一ノ内ヲ減シ或ハ悉皆免除スルコアルベシ

第一千七百二十五

明治十一年四月四日內務省達

乙第三十三號

府 縣

各府縣於テ博覽會開設候節以來官設民設ヲ論セス發會以前右規則書相添可届出候且ツ出品目錄審查薦告狀寫トモ是又追テ差出可申尤閉場之後ニ至リ該會之景况別紙書式ニ照シ取調申報可致候此旨相達候事

但物産會等ニテ博覽會ニ類似之分ヲ本文ニ準シ可届出事

別紙

〔括弧内ハ朱書〕

明治何府縣下官設博覽會景况報告書

會場 某國郡某地

會主何〔府縣廳又ハ協會社〕

開場 何月何日

閉場 何月何日

第十三類 博覽會

通券價格	何程	〔又ハ平日何程 日曜何程〕	通券料收額	何程
出品主	何人		觀客	何人〔又ハ平日何人 日曜何人〕
列品數	何品		列品總價	何程
				〔但賣價ヲ記スヘシ〕
列品賣數	何品		同價額	何程
褒賞授附	何人		通券料	
會場總費	何程		府縣稅又ハ會社費	
內	何程			
何程				
審查官人名			族籍	
			姓	名
同			同	姓
			姓	名

〔但別ニ賣店ヲ設ルモノハ其賣數價額ヲ別記スヘシ〕

一般ノ景況云々

但列品中特異發見ノ礦物若クハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ製工品ハ從前其地方ニ無キ所ニシテ新タニ製出セシモノ就中輸入品ニ代用スヘキモノ機械ハ新發明若クハ洋式模造ニテ便益ノ實驗アルモノ等ハ特ニ之ヲ標記シ其他一般物産工藝ノ進歩及ヒ通商運輸ノ得失ヨリ將來勸奨ノ目途等マテ都テ緊要ノ景況ヲ報告スヘシ

但連年開設スルモノハ前年ト比較ノ景況ヲ擧ケ且ツ民設ナレハ其損益及ヒ保續ノ目的等ヲ記載スヘシ

各府縣長官又ハ何博覽會社

第一千七百二十六 明治十一年六月三日内務大藏兩省達

乙第四十七號

府 縣

各府縣於テ一時博覽會相開候節列品中酒類煙草賣藥等販賣方成規有之物品場中於テ賣渡ノ儀ハ其出品人兼テ右營業免許ノ者ニ候ハ、別段受賣免許鑑札申受ニ不及尤煙草ノ儀ハ假令見本品タリ共需求ニ應シ賣渡候節ハ成規ノ通り印紙貼用可致此旨相達候事

但開場中一時賣物店開設開届候向モ本文ニ准シ受賣鑑札申受ニ不及候得共何營業免許人何某ト記載セル木製ノ看板ヲ見易キ場所ヘ必ス揭示可致事

第一千七百二十七 明治十一年十一月廿一日内務省達



乙第七十七號

府 縣

各府縣ニ於テ小博覽會興行候節往々審査官派出之儀願出候處右ハ其出品物産ノ景況ニヨリ自然全國一般ノ勸業上ニ可相關ト認定候者ニ限リ派出爲致候條兼テ可相心得此旨相達候事

第二千七百二十八 明治十年十二月廿八日布告

第八十八號

內國勸業博覽會ノ儀明治十年ヲ以第一會トシ爾後五ケ年月毎明治十四年ヲ以テ第二會トスニ被開候條此旨布告候事

但本會開設ノ場所及日限諸規則等ハ二ヶ年前ニ布告スヘキ事

### 第十四類

#### 民法

婚姻。相續。養子。養女。元服。分家。合家。離婚。離縁。

第二千七百二十九 明治三年閏十月十七日布告

- 一 華族之輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事
- 但癡疾及事故ニ罹リ候輩ハ此限ニ非ス
- 一 嫡子嫡孫年十一歳ヨリ元服願之儀可爲勝手事
- 一 實子無之輩ハ年齢ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
- 右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

第二千七百三十 明治三年閏十月十七日布告

- 一 士族之輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事
- 一 實子無之候ハ、年齢ニ不拘養子願之儀可爲勝手事
- 右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

第二千七百三十一 明治四年八月廿三日布告

華族ヨリ平民ニ至ル迄互婚姻被差許候條雙方願ニ不及其時々戸長ニ可届出事

圖原文(此  
項五年百三  
七號布告ニ  
テ洵ル)ト  
アレ共消ユ  
ラス其願  
屈ニ改メシ  
ノ

圖後ノ公達ニ  
依リ華族ハ宮  
内省ヘ出願ス  
ヘキモノトス

第十四類

民法

婚姻相續養子養女元服分家合家離婚離縁

二百七十一

但送籍方ノ儀ハ戶籍法第八則ヨリ十一則迄ニ照準可致事

第一千七百三十一 明治四年九月晦日布告

華族士族ニ不拘病氣危篤ニ付家督相續願中死去候ハ、願濟ヲ不待直ニ可届出候事

第一千七百三十二 明治五年四月廿八日布告

第三百二十七號

華族元服自今願ニ不及候條前以日限可届出事

第一千七百三十四 明治六年一月廿二日布告

第二百七號

自今華士族平民互ニ養子取組不苦候事

但華族ハ管轄廳ヨリ正院へ伺出土族ハ管轄廳ニテ開届平民ハ戶長へ可届出事

第一千七百三十五 明治六年一月廿二日布告

第廿八號

今般華士族家督相續ノ儀ニ付左之通被相定候條此旨相達候事

總領ノ男子他へ養子ニ遣シ或ハ父ノ心底ニ不應縁故有之者へ厄介ニ遣シ其家ハ次ニ男或

ハ他人ニテモ當主ノ存寄ヲ以テ相續願出候節ハ開届不苦事

幼少ニテ家督爲致候節ハ親戚又ハ他人ニテモ相當ノ者相撰後見可爲致事

但書中華族ノ件ハ九年廿六號四十八號達ニテ改ム参照スヘシ

此一項六年二百六十三號布告ヲ以テ改正ス

此一項九年七十五號布告ヲ以テ廢ス

六非二百六十三號布告ヲ以テ一項ヲ追加ス  
華族ノ何方ハ九年廿六號四十八號達ヲ以テ改ム

當主隱居致シ實子又ハ養子家督相續致シ候上其相續人多病或ハ不埒ノ儀有之歟又ハ病死致シ最前ノ隱居壯健ニテ再相續願出候節ハ開届不苦事

但再相續人ト可稱事

當主壯年ナレトモ疾病其外無據事故有之養子致シ候處前當主疾病平愈又ハ事故相解候節再家督致シ右養子ハ實家へ立戻リ候歟又ハ當主他へ縁付候共双方熟談ノ上願出候ハ、開届不苦事

本家分家親戚等ノ内當主病死致シ跡子弟幼年並婦女子等ノ砌死者ノ遺言又ハ其父母并重立候親戚及遺妻子女熟談ノ上合家願出候ハ、開届不苦事

父兄伯叔總テ目上ノ者子弟甥等ノ目下ノ家ヲ繼承スルトキハ相續人ト稱シ養子ト稱スヘカラス

當主死去跡嗣子無之婦女子ノミニテ已ヲ得サル事情アリ養子難致者ハ婦女子ノ相續差許從前ノ給祿可支給事

右之通條條華族ハ管轄廳ヨリ正院へ相伺土族ハ管轄廳ニ於テ開届可申事

第一千七百三十六 明治六年七月廿二日布告

第三百六十二號

本年一月第廿八號布告華士族家督相續ノ儀御詮議ノ次第有之左之通第一章改正並ニ一章追

加相成候條此旨華士族へ布告スヘキ事

第一章改正

家督相續ハ必ス總領ノ男子タルヘシ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止ノ事故アレハ其事實ヲ詳ニシ次男三男又ハ女子へ養子相續願出ツヘシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ツヘシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續致ス者ハ相當ノ咎可申付事

一章追加

婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致シ候ハ直ニ其夫又ハ養子へ相續可相讓事

第一千七百二十七

明治六年三月十四日布告

第二百二號

自今外國人民ト婚姻差許左之通條規相定候條此旨可相心得事

一日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受クヘシ

一外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若故有ツテ再ヒ日本人タルノ分限ニ復センコト願フ者ハ免許ヲ得能フ可シ

一日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ

一外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖モ日本ノ不動產ヲ所有スルコトヲ許サス但シ日本ノ國法並ニ日本政府ニテ定タル規則ニ違背スルコトナクハ金銀動產ヲ持携スルハ

妨ケナシトス

一日本ノ女外國人ヲ婚養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ免許ヲ受クヘシ

一外國人日本人ノ婚養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ

一外國ニ於テ日本人外國人ト婚嫁セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府へ届出ヘシ

第一千七百二十八

明治六年五月十五日布告

第六十二號

夫婦ノ際已マテ得サルノ事故アリテ其婦離縁ヲ請フト雖モ夫之ヲ肯ンセス之レカタメ數年ノ久ヲ經テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スルモノ不少候自今右様ノ事件於有之ハ婦ノ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直ニ裁判所へ訴出不苦候事

第一千七百二十九

明治七年七月十日布告

第七十三號

自今華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入候條此旨布告候事

但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手タルヘキ事

第一千七百四十

明治八年十二月九日達

第二百九號

使 府 縣

第十四類

民法

婚嫁相續養子養女元服分家合家離縁

三百七十五

家祿ハ九年百八號布告ヲ以テ廢ス

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁令相對熟談ノ上タリト雙方ノ戶籍ニ登記セサル  
内ハ其効ナキ者ト看做スヘク候條右等ノ届方等閑ノ所業無之様精々説諭可致置此旨相達候事  
第一千七百四十一 明治十年六月十九日司法省達  
丁第四十六號

大 審 院  
上 等 裁 判 所  
地 方 裁 判 所

八年第二百九號御達ノ儀ニ付有馬判事ヨリ甲號ノ通伺出ニ因リ乙號ノ通太政官へ上申候處  
丙號ノ通御裁令相成候條此段爲心得相達候事  
甲號

擬律伺

明治八年第二百九號公布婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁令相對熟談ノ上タリ  
トモ雙方戶籍ニ登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做ス可ク云々ト有之候付テハ雙方父母親屬  
熟談ノ上人ノ妻トナリ男女ノ子アル者ト雖モ戶籍ニ登記無之者ハ犯姦告訴等ノ節無論處女  
ト看做シ處分致ス儀ニ可有之尤右ノ者夫又ハ夫ノ祖父母父母ヲ謀殺故殺毆傷罵詈等ニ至ル  
迄總テ凡人ヲ以テ論シ且人ノ養子女トナリテ同居シ實際親子ノ會釋ヲ爲ス者ト雖モ前同斷  
ノ者ハ皆凡人ヲ以テ處分致シ可然哉已ニ戶籍法規則確定ノ上ハ婚姻又ハ養子女等其時々送

籍等ヲ不爲者ハ無之筈ニ候得共邊土僻隅ノ愚民ニ至テハ絶テナシトモ難確定候ニ付犯者ア  
ルニ臨ミ實際ト條理上下不都合ヲ可生様有之關係不尠聊疑義ヲ生シ候條豫メ御指揮ヲ受置  
度此旨相伺候也

明治九年四月十八日

司法卿大木喬任殿

在官崎縣  
七等判事有馬純行

乙號

太政官へ上申

婚姻又ハ養子女ノ取組若クハ其離婚離縁令相對熟談ノ上タリト雙方ノ戶籍ニ登記セサル  
タリ然ルニ該達ハ文意稍明確ヲ欠キ或ハ官崎縣伺ノ如キ疑團ヲ生スルアリト雖モ該達  
ノ文意ヲ熟按スルニ假令ヒ相對熟談ノ上タリト云々ノ文字アリテ既ニ其婚姻ヲ行ヒ夫婦ト  
爲リタル者ヲ指シスルニアラス其主意ヲ約言スレハ婚姻養子ノ取組等ヲ爲スニ當リ雙方ノ  
熟談ノミニテハ一概ニ之ヲ夫婦父子ト見ル可カラサル旨ヲ示シタルモノナリ(尤モ最初該  
達施行ノ際ハ此辨明ト其旨意ヲ異ニセシヤモ知ル可カラサレト今日ノ日法律ノ改良修正ヲ  
要スルニ當テハ成ルヘク舊法ヲ破毀セス之カ辨明ヲ以テ其効ヲ得シムルヲ良トス)然ルニ  
若シ之ヲ以テ既ニ婚姻ヲ行ヒ親族隣里モ之ヲ認許セシ者ニ適用シテ凡人ヲ以テ處分スルハ  
實ニ人類社會ノ根本タル一家親族ノ大倫ヲ亂スヘキ法律ト云ハサルヲ得ス

第十四類

民法

婚姻、相續、養子、養女、元服、分家、合家、離婚、離縁

二百七十七